

授業科目	学びの理解 Understanding of Study at Tertiary Level	担当教員	久保 ちづる、木津 由美子、飯田 直弘
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	大学（高等教育）での学びの出発点として、学士力「文化・社会に関する知識・理解」「社会人に必要な汎用的技能」「態度・志向性」「創造的思考力」を修得する意義、および専門職業人としての学習態度や倫理観、職業観を身につける重要性を認識する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学業を中心とした大学生活全般の自己管理能力と自律的な学習態度を培う。</li> <li>2. 社会人として、医療人として求められる社会的責任と行動、職業観の形成を促す。</li> <li>3. 現代の保健医療に係る課題と医療人としての社会的貢献のあり方について考える。</li> <li>4. 医療人としての看護職と管理栄養士の役割と連携を理解し、共同体意識を形成する。</li> <li>5. 4年間の大学生活での目標を確認し、自己の課題と学習計画を考える。</li> <li>6. コミュニケーション・スキル、論理的思考と問題解決力を修得する意義を理解する。</li> <li>7. 社会人・職業人としての汎用的スキルの意味と活用するための基礎を理解する。</li> </ol>		
テキスト	なし		
参考書	なし		
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準 目標の到達状況を提出物および授業参加態度等により総合的に評価する。最終の評価点数は、各教員の評定を総合して行う。
	試験		
	レポート	80%	
	小テスト		
	提出物	20%	
その他			
履修上の留意事項	参考文献は随時、提示する。 レポートの課題と提出方法は、各教員の講義最終時に提示する。		
実務経験を活かした教育内容			
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1 (木津)	学習の主題	ガイダンス 本科目の目的・目標、学習内容と方法、履修上の留意事項についての説明 大学での学び方
		授業内容	1. 大学（高等教育）教育の目的と共通能力「学士力」の育成 2. 自律的学習の実践：「学習活動の手引き」
		事前・事後学習	事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにしておく。
	2 (木津)	学習の主題	学士力と本学教育理念「人間力」
		授業内容	・人間力とは ・社会人・医療人に求められる資質・能力とは ・学ぶ力とは：「感じる」「表現する」「伝える」「共有する」
		事前・事後学習	受講後、「本学で学ぶ意義」について A6 版用紙 250 字程度にまとめる。
	3 (木津)	学習の主題	学ぶ力の体験学習「いのち」「人が社会で生きること」
		授業内容	・DVD「赤ちゃんの運命を決めるもの」の視聴 ・個別学習：・DVD 内容について「感じたこと」「考えたこと」 ・グループ学習：「表現する」「伝える」「共有する」
		事前・事後学習	「いのち」「人が社会で生きること」に関して、自己の学びを指定用紙にまとめる。
	4 (飯田)	学習の主題	大学（高等教育）で学ぶこと（1）
		授業内容	・コミュニケーション・スキルとは ・論理的思考力とは ・問題解決力とは
		事前・事後学習	高校と大学の学びはどのような点が違うのかを考える。

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	5 (飯田)	学習の主題	大学（高等教育）で学ぶこと（2）
		授業内容	・汎用的スキルの活用について
		事前・事後学習	前回の授業で学んだことを復習し、将来汎用的スキルを活用する場面をシミュレーションする。
	6 (久保)	学習の主題	医療職と大学教育（1）
		授業内容	・保健医療に係る現代の課題と医療職の役割 ・管理栄養士の役割
		事前・事後学習	医療職が大学で学ぶ意義について、自分の考えをまとめる。
	7 (木津) (久保)	学習の主題	医療職と大学教育（2）
		授業内容	・看護職の役割 ・グループ学習：看護職と管理栄養士の役割の共通性と相違性、同じ大学で学ぶ意義 ・グループ発表
		事前・事後学習	医療職が大学で学ぶ意義について、自分の考えをまとめる。
8 (木津) (久保)	学習の主題	大学で学ぶ目標と課題の共有	
	授業内容	グループ学習 ・学びの目標をもつ：どんな看護職・管理栄養士になりたいか ・目標実現のために為すべきこと、大切にすること グループ発表	
	事前・事後学習	グループ学習からの学びをまとめる。	

授業科目	生物学 A・B Biology	担当教員	津久井 隆行、松川 典子 ※担当教員は、クラス別
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	生命体の特性、生殖と発生、外部からの刺激の受容や内部環境の維持について理解し、広く生命現象に関する知識を修得する。特に、ヒトの体の構造および機能に関して学び、体の各部分の機能の低下と病気との関係について理解する。また、栄養素について学び、どのように体内で利用されているのかについて理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生物の基本単位である細胞の構造や機能、および、細胞が集まって形成される組織や器官について理解する。</li> <li>2. 生命活動に必要な栄養素や、体内で起こる物質代謝について理解する。</li> <li>3. 生物が受精によって遺伝物質を親から子に伝えるしくみや、受精卵が分化する過程について理解する。</li> <li>4. 再生医療とはどのような医療なのかについて理解する。</li> </ol>		
テキスト	「新体系看護学全書 基礎科目 生物学」(メヂカルフレンド社)		
参考書	「レーヴン/ジョンソン 生物学」上・下 (培風館)		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	70%	目標の到達状況を小テストおよび定期試験により総合的に評価する。
	レポート		
	小テスト	30%	
	提出物		
その他			
履修上の留意事項	重要な内容については配布資料やスライドで解説するが、その他の内容についてもテキストの十分な読み込みが必要。		
実務経験を活かした教育内容			
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1	学習の主題	細胞に関する基礎知識
		授業内容	ガイダンス 本科目の目的・目標、学習の内容、評価方法と基準、履修上の留意点の説明 生物を構成する最小の単位である細胞について以下の点から理解する。 ・細胞の構造と機能 ・細胞の増殖 (細胞分裂) 細胞に水が出入りするしくみについて理解する。 ・浸透圧とそれに伴う様々な現象
		事前・事後学習	事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにしておく。 授業内容の予習・復習をする。
	2	学習の主題	個体の成り立ちー分化 生体内の物質の流れと働き (1)
		授業内容	分化した細胞が多数集まって形成される組織について特徴を理解する。 生命活動における同化のしくみについて以下の点から理解する。 ・物質代謝と酵素 ・栄養素 ・消化のみちすじ
		事前・事後学習	授業内容の予習・復習をし、次回までにレポートを完成させる。
	3	学習の主題	生体内の物質の流れと働き (2)
		授業内容	生命活動における異化のしくみについて以下の点から理解する。 ・肺によるガス交換 ・腎臓の構造と働き (尿の生成)
	事前・事後学習	授業内容の予習・復習をする。 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。	
	4	学習の主題	からだの恒常性の維持 (1)
		授業内容	内部環境としての体液の働きについて理解する。
事前・事後学習		授業内容の予習・復習をする。 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。	

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	5	学習の主題	からだの恒常性の維持 (2)
		授業内容	生物はどのようにして体内の環境を一定の状態に維持しているのかについて以下の点から理解する。 ・神経系とその働き ・内分泌系とその働き
		事前・事後学習	授業内容の予習・復習をする。 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
	6	学習の主題	外的刺激の受容
		授業内容	生物が環境の変化を受け取り、それに反応するしくみについて以下の点から理解する。 ・刺激と反応 ・感覚器とその働き (視覚と聴覚)
		事前・事後学習	授業内容の予習・復習をする。 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
	7	学習の主題	生殖と発生
		授業内容	生物が受精のために配偶子を形成するしくみについて理解する。 ・配偶子の形成 - 減数分裂 ヒトの発生と再生医療について理解する。
		事前・事後学習	授業内容の予習・復習をする。 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。
	8	学習の主題	遺伝
		授業内容	遺伝物質とはどのようなものなのか、遺伝物質によって何がつくられ、生命活動ではどのように利用されているのかを以下の点から理解する。 ・遺伝物質の所在 ・DNAの構造 ・たんぱく質の合成 ヒトの遺伝と、それに伴って生じる病気について理解する。 ・遺伝性疾患と酵素 ・伴性遺伝 ・染色体異常
		事前・事後学習	授業内容の復習をする。 講義開始時に前回の内容に関する小テストを行う。

授業科目	化学 Chemistry	担当教員	森山 隆則
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	化学は、全ての自然科学の中心にありそれらを学ぶ基礎となるが、本講ではとりわけ看護学に不可欠な化学的基礎知識を抽出し学修する。具体的には国際単位の表示方法、水溶液の様々な濃度の表示方法と換算方法と浸透圧の考え方、pHの考え方と血液のpH、大気圧と血圧の単位、生体（食品）成分である糖質・脂質・蛋白質・核酸などについて学修する。また、尿検査、血球検査、肝機能検査などの臨床検査の概略を示しそれらの臨床的意義について学修する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 化学に不可欠な国際単位系について理解し単位換算ができる。</li> <li>2. 水溶液の様々な濃度の表示方法（浸透圧を含む）を説明でき単位換算ができる。</li> <li>3. pHの定義が理解でき血液のpHの恒常性について説明できる。</li> <li>4. 血圧の意味を知り表示単位と大気圧の単位との関連性について説明できる。</li> <li>5. 糖質・脂質・蛋白質・核酸などの成分についての概略について説明できる。</li> <li>6. 尿検査、血球検査、肝機能検査などの臨床検査の概略を示しそれらの臨床的意義について説明できる。</li> </ol>		
テキスト	教員が作成する配布資料		
参考書	平田雅子「ベッドサイドを科学する－看護に生かす物理学」(学研) 松野一彦、他「一目でわかる臨床検査」(メディカル・サイエンス・インターナショナル)		
評価方法・基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	70%	目標の到達状況を定期試験(70%)、その他(30%)で評価する。 その他：授業時の発表、取組み姿勢
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
その他	30%		
履修上の留意事項	講義後、必ず復習して下さい。		
実務経験を活かした教育内容			
学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容
	1	学習の主題	基礎化学に不可欠な国際単位について説明でき単位換算できる。
		授業内容	様々な国際単位について説明し単位換算について解説する。
		事前・事後学習	プリント内容は必ず予習・復習して下さい。
	2	学習の主題	水溶液の様々な濃度の表示方法（浸透圧を含む）を説明でき単位換算ができる。
		授業内容	水溶液の様々な濃度の表示方法（浸透圧を含む）と考え方について解説する。
		事前・事後学習	プリント内容は必ず予習・復習して下さい。
	3	学習の主題	pHの定義が理解でき血液のpHについて説明できる。
		授業内容	酸とアルカリを決めるpHの定義を解説し血液のpHの恒常性について解説する。
		事前・事後学習	プリント内容は必ず予習・復習して下さい。
	4	学習の主題	血圧の意味を知り表示単位と大気圧の単位との関連性について説明できる。
		授業内容	血圧について概略を説明し表示単位の意味するところを解説する。
		事前・事後学習	プリント内容は必ず予習・復習して下さい。
	5	学習の主題	糖質・脂質・蛋白質・核酸などの成分について概略を解説できる。
		授業内容	糖質と脂質の成り立ちと代謝の概略について解説する。
		事前・事後学習	プリント内容は必ず予習・復習して下さい。
	6	学習の主題	糖質・脂質・蛋白質・核酸などの成分について概略を解説できる。
		授業内容	糖質と脂質の成り立ちと代謝の概略について解説する。
事前・事後学習		プリント内容は必ず予習・復習して下さい。	

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	7	学習の主題	尿検査、血球検査、肝機能検査などの臨床検査の概略を示しそれらの臨床的意義について説明できる。
		授業内容	臨床検査の検体条件と尿検査、血球検査、生化学検査の項目を示しそれらの臨床的意義について解説する。
		事前・事後学習	プリント内容は必ず予習・復習して下さい。
	8	学習の主題	尿検査、血球検査、肝機能検査などの臨床検査の概略を示しそれらの臨床的意義について説明できる。
		授業内容	肝機能検査を中心とした生化学検査の項目を示し臨床的意義について解説する。
		事前・事後学習	プリント内容は必ず予習・復習して下さい。

授業科目	論理的思考 Introduction to Logic	担当教員	崔 昌鳳
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	本科目は、学生諸君に人間の日常的活動のひとつである推論という営みについて理解を深めてもらい、それを通じて、各自が様々な問題に対し論理的・批判的に考えるスキル及び、それを適切に表現する術を身につけることを目的とする。		
到達目標	1. 様々な文章中に、どのような推論が含まれているかを見出し、明示的に書き換える技術を身につける。 2. 様々な推論事例について、批判的に考察する技術を身につける。 3. 論理的に正しい推論を自ら構成できるようになる。		
テキスト	必要に応じて資料を配付する。		
参考書	戸田山和久「論文の教室：レポートから卒論まで」(NHK 出版) 野矢茂樹「新版 論理トレーニング」(産業図書)		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	70%	目標の到達状況を提出物と定期試験結果により総合的に評価する
	レポート		
	小テスト		
	提出物	30%	
その他			
履修上の 留意事項	授業中に課題演習を課す。演習に取り組む際には、与えられた課題について自分で考えることが要求される。課題演習の「解答」を単に覚えるだけではほとんど学習効果は得られないものと心得ておいていただきたい。		
実務経験を 活かした教育内容			
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1	学習の主題	授業概要 - 「論理的思考とはなにか」
		授業内容	授業内容及び成績評価法について概説する。
		事前・事後学習	講義内容をノートにまとめておくこと。
	2	学習の主題	主張と根拠---情報の取捨選択
		授業内容	資料に基づいて文章を作成する演習を行う。配布する資料には、種々雑多な情報を載せているが、指定した内容の文章を書くために、自ら情報を取捨選択する必要がある。
		事前・事後学習	講義時間内に課題文章を作成できなかった場合、次回までに書き上げてくること。
	3	学習の主題	主張と根拠---論理的に正しい文章の書き方
		授業内容	第2回で作成した文章を題材に、論理的に正しい文章を書くために必要な事柄について講義する。
		事前・事後学習	講義内容をふまえて、次回までに課題文章を修正し、書きあげてくること。
	4	学習の主題	論理パズル その1
		授業内容	講義冒頭で演習問題を提示し、その解答をレポート用紙に記入してもらう。解答には、答えだけではなく、なぜその答えが正しいのかについての考察を含める必要がある。
		事前・事後学習	演習問題の解答を作成し、次回講義時に持参してくること。
	5	学習の主題	論理パズル その2
		授業内容	第4回で提示した演習問題を題材に、複雑な状況を表を用いて明晰化する手法について解説する。
		事前・事後学習	講義内容をふまえて、演習問題への解答を再度、作成し、次回提出すること。
	6	学習の主題	規範的規則と法則
		授業内容	規範的規則と法則の違いについて詳説する。
事前・事後学習		この回はなし。	

回数 (担当)	項目	内容
7	学習の主題	規範言明を含む推論
	授業内容	「～は良い」、「～すべきである」、「～してはならない」といった形の文を用いた推論について詳説する。
	事前・事後学習	練習問題を配布するので、解答を記入したうえで次回、持参すること。
8	学習の主題	事実と意見
	授業内容	事実と意見の違いとこれらの関係について講義する。
	事前・事後学習	練習問題とその解答を配布するので、各自で問題に取り組むこと。
9	学習の主題	事実と意見 その2
	授業内容	事実と意見を混在させることの危険性について、具体例をもとに講義する。
	事前・事後学習	練習問題とその解答を配布するので、各自で問題に取り組むこと。
10	学習の主題	演繹詳論 その1 - 意味・真理値・真理表
	授業内容	論理定項（「かつ」、「または」、「ならば」等）の意味について、真理表を用いて規定する。
	事前・事後学習	この回はなし。
11	学習の主題	演繹詳論 その2 - 推論規則
	授業内容	代表的な推論規則を取り上げ、真理表を用いてそれらの妥当性を確認する。
	事前・事後学習	練習問題を配布するので、解答を記入したうえで次回、持参すること。
12	学習の主題	演繹詳論 その3 - 量化論理
	授業内容	量化論理の重要性について、日常的な推論をもとに解説する。
	事前・事後学習	練習問題とその解答を配布するので、各自で問題に取り組むこと。
13	学習の主題	演繹と推測
	授業内容	仮説形成とその検証について概説し、演繹と推測の関連性について講義する。
	事前・事後学習	講義後、仮説形成型の推測事例をひとつ自分で構成してみることに。
14	学習の主題	知識と論理
	授業内容	以下のトピックについて講義を行う。 1. 「真であることを信じる」と「知っていること」の違い 2. 知識論理パズル
	事前・事後学習	この回はなし。
15	学習の主題	総合演習
	授業内容	第1回から第14回までの講義内容に関して理解を深めてもらうための課題演習を課す。
	事前・事後学習	この回はなし。

学習の主題・  
授業内容

授業科目	情報処理 Information Processing	担当教員	末光 厚夫
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1単位
授業目的	本科目では、基礎的なコンピュータリテラシーを習得し、専門科目に適用できることを目指す。演習を通じて、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの使い方とインターネットを活用した情報収集やコミュニケーションの方法を学ぶ。		
到達目標	1. PCの基礎的な使い方、電子メールやインターネットの活用法を習得する。 2. Word、Excel、PowerPointの基本的操作を習得する。		
テキスト	授業時に資料を配付する。		
参考書	富士通エフ・オー・エム「よくわかる Word2019 & Excel2019 & PowerPoint2019」(FOM 出版)		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	60%	4回のレポート(40%)でPCの基礎的な使い方と、Word、Excel、PowerPointの基本的操作が身についているか評価する。定期試験(60%)では、PCを使用した実技試験を通して、Word、Excel、PowerPointの習熟度を評価する。
	レポート	40%	
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の留意事項	事前学習は特に必要ないが、授業で習った内容については、次週までに習得できるように復習しておくこと。		
実務経験を活かした教育内容			
学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容
	1	学習の主題	PCの基礎的な使い方
		授業内容	本科目の目的と構成について理解し、各回の位置づけを確認する。授業で使用するPCの基礎的な操作方法(PCの起動と終了、マウス・キーボードの操作、ファイルの保存など)を学ぶ。
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	2	学習の主題	電子メールの利用とタイピング
		授業内容	1. 電子メールの利用方法を習得する。 2. タイピングの方法を学ぶ。
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	3	学習の主題	インターネットの活用とマナー
		授業内容	1. ブラウザを利用したインターネット検索の方法を学ぶ。 2. インターネットを使用する際のマナーを理解する。
		事前・事後学習	講義内容を復習する。指定する期日までに課題を完成して提出する。
	4	学習の主題	Wordの基本(1)
		授業内容	1. Wordの基礎知識を習得する。 2. 文字入力の仕方を理解する。
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	5	学習の主題	Wordの基本(2)
		授業内容	文書作成における基本的操作(文字のコピー・移動、配置、装飾、書式)を理解する。
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	6	学習の主題	Wordの基本(3)
		授業内容	グラフィック機能(オンライン画像、図、図形、ワードアート)を使用した文書作成の仕方を理解する。
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	7	学習の主題	Wordの基本(4)
		授業内容	1. 表を使用した文書作成の仕方を理解する。 2. 学習したWordの機能を活用して文書を作成する。
事前・事後学習		講義内容を復習する。指定する期日までに課題を完成して提出する。	

回数 (担当)	項目	内容
8	学習の主題	Excel の基本 (1)
	授業内容	1. Excel の基礎知識を習得する。 2. データ入力の仕方を理解する。
	事前・事後学習	講義内容を復習する。
9	学習の主題	Excel の基本 (2)
	授業内容	1. 表の作成の仕方を理解する。 2. 表計算機能 (四則計算、関数など) を理解する。
	事前・事後学習	講義内容を復習する。
10	学習の主題	Excel の基本 (3)
	授業内容	グラフ (棒グラフ、円グラフなど) の作成の仕方を理解する。
	事前・事後学習	講義内容を復習する。
11	学習の主題	Excel の基本 (4)
	授業内容	1. データベース機能を理解する。 2. 学習した Excel の機能を活用してデータ処理を行う。
	事前・事後学習	講義内容を復習する。指定する期日までに課題を完成して提出する。
12	学習の主題	PowerPoint の基本 (1)
	授業内容	1. PowerPoint の基礎知識を習得する。 2. スライド作成の基礎を理解する。
	事前・事後学習	講義内容を復習する。
13	学習の主題	PowerPoint の基本 (2)
	授業内容	テキスト、オンライン画像、図、図形、表、SmartArt を使用したスライドの作成の仕方を理解する。
	事前・事後学習	講義内容を復習する。
14	学習の主題	PowerPoint の基本 (3)
	授業内容	画面切り替え、アニメーション、スライドショーの機能を理解する。
	事前・事後学習	講義内容を復習する。
15	学習の主題	PowerPoint の基本 (4)
	授業内容	1. プレゼンテーションのやり方の基本を理解する。 2. 学習した PowerPoint の機能を活用して、プレゼンテーション用の資料を作成する。
	事前・事後学習	講義内容を復習する。指定する期日までに課題を完成して提出する。

学習の主題・  
授業内容

授業科目	統計分析法 Statistical-analytical Method		担当教員	末光 厚夫
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・後期		選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1単位	
授業目的	収集したデータの特徴を明らかにするための統計分析の手法について学ぶとともに、コンピュータを使用して統計分析を実行する方法を学ぶ。演習を通じて、特徴の数値化、各種データのグラフ化、統計的推定・統計的検定などの統計処理、調査データの処理方法などについて習得する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 統計学の体系について理解し、データの種類と特性について理解する。</li> <li>2. 記述統計学の基礎を理解し、Excelを使用した統計処理方法を習得する。</li> <li>3. 推測統計学の基礎を理解し、Excelを使用した統計処理方法を習得する。</li> <li>4. 調査データの処理方法の基礎を習得する。</li> </ol>			
テキスト	授業時に資料を配付する。			
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 白砂堤津耶「例題で学ぶ初歩からの統計学」(日本評論社)</li> <li>2. 菅民郎「Excelで学ぶ統計解析入門」(オーム社)</li> <li>3. 石村園子「すぐわかる確率・統計」(東京図書)</li> <li>4. 上田拓治「44の例題で学ぶ統計的検定と推定の解き方」(オーム社)</li> </ol>			
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準	
	試験	60%	毎回の講義において、講義内容の理解度を評価するために、提出物(40%)として、演習課題を課す。定期試験(60%)では、統計学の基礎知識の理解度を評価するとともに、一部実技試験を通して、Excelを使用した統計処理方法の習熟度も評価する。	
	レポート			
	小テスト			
	提出物	40%		
その他				
履修上の留意事項	統計分析法の学習とExcelを使用したデータ処理方法の修得は表裏一体であることから、繰り返し練習すること。			
実務経験を活かした教育内容				
学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	統計学とは	
		授業内容	本科目の構成と指針について説明し、統計学発展の歴史、目的と有用性、統計分析手法の体系などを概説したうえで、各回の位置づけを確認する。	
		事前・事後学習	講義内容を復習する。	
	2	学習の主題	記述統計学の基礎(1)	
		授業内容	各種調査で収集したデータの種類を理解し、それらの性質について学ぶ。Excelを使用してデータから度数分布表やヒストグラムを作成する方法などを習得する。	
		事前・事後学習	講義内容を復習する。	
	3	学習の主題	記述統計学の基礎(2)	
		授業内容	分布の中心を表す代表値、ばらつきを表す四分位範囲、箱ひげ図と異常値の識別、偏差、分散、標準偏差などの考え方について理解し、Excelを使用した計算方法も習得する。	
		事前・事後学習	講義内容を復習する。	
	4	学習の主題	記述統計学の基礎(3)	
		授業内容	変動係数、Zスコア、偏差値、分布の歪度、尖度などについて学び、Excelの分析ツールを使用して記述統計量を算出する方法も習得する。	
		事前・事後学習	講義内容を復習する。	
	5	学習の主題	推測統計学への準備(1)	
		授業内容	統計的推定・検定のための準備として、確率の考え方を理解する。確率、確率変数、確率分布、確率変数の平均値、分散、確率変数の標準化などの考え方を理解し、Excelを使用した計算方法を習得する。	
事前・事後学習		講義内容を復習する。		

回数 (担当)	項目	内容
6	学習の主題	推測統計学への準備 (2)
	授業内容	重要な確率分布 (二項分布、正規分布、標準正規分布、t分布、 $\chi^2$ 分布、F分布など) の特徴と適用する分析手法、計算方法を理解する。
	事前・事後学習	講義内容を復習する。
7	学習の主題	推測統計学への準備 (3)
	授業内容	母集団と標本、母数と統計量の理解、さらに標本を得るための標本抽出について学ぶ。正規母集団、母数、統計量と標本分布、推定量と推定値、中心極限定理などの概念を理解する。
	事前・事後学習	講義内容を復習する。
8	学習の主題	統計的推定の基礎 (1)
	授業内容	統計量から母数を統計的に推定する方法を学ぶ。推定のための用語、点推定と区間推定、信頼係数と信頼区間の考え方、推定方法などについて理解する。
	事前・事後学習	講義内容を復習する。
9	学習の主題	統計的推定の基礎 (2)
	授業内容	正規母集団の母平均の推定 (母分散既知/未知)、小標本における母平均の推定、母分散の推定、母比率の推定などについて理解し、Excel を使用した推定の計算方法を習得する。
	事前・事後学習	講義内容を復習する。
10	学習の主題	統計的検定の基礎 (1)
	授業内容	ある仮説が正しいか否かを無作為抽出した標本に基づいて統計的に判断する検定の考え方を学ぶ。帰無仮説、対立仮説、有意水準、棄却域、臨界値、p 値、仮説の採択および棄却、片側検定と両側検定などについて理解する。
	事前・事後学習	講義内容を復習する。
11	学習の主題	統計的検定の基礎 (2)
	授業内容	第Ⅰ種の過誤と第Ⅱ種の過誤の考え方を学ぶ。母平均の検定、母平均の差の検定、母分散の検定などについて理解し、Excel を使用した検定の計算方法を習得する。
	事前・事後学習	講義内容を復習する。
12	学習の主題	統計的検定の基礎 (3)
	授業内容	等分散の検定、母比率の検定、母比率の差の検定などについて理解し、Excel を使用した検定の計算方法を習得する。
	事前・事後学習	講義内容を復習する。
13	学習の主題	相関分析
	授業内容	2変数間の関係を分析する手法を学ぶ。相関図、相関係数、クラメールの連関係数、順位相関係数、無相関の検定、独立性の検定などについて理解し、それぞれの統計処理の手順を習得する。
	事前・事後学習	講義内容を復習する。
14	学習の主題	調査データの集計と分析
	授業内容	Excel を使用した調査データの入力方法、ピボットテーブルによるクロス集計表の作成の手順を学ぶ。また、作成したデータを用いて、グラフ化や検定などの統計処理を行い、統計分析の手法の一連の手順を確認する。
	事前・事後学習	講義内容を復習する。
15	学習の主題	SPSS 統計パッケージの活用
	授業内容	Excel に入力されたデータを SPSS 統計パッケージで活用し分析するための基本的な手順と出力結果の見方について学ぶ。
	事前・事後学習	講義内容を復習する。

学習の主題・  
授業内容

授業科目	英語Ⅰ（基礎）A EnglishⅠ	担当教員	松尾 文子
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1単位
授業目的	英語の基礎的な知識を整理する。英語運用能力の向上に必要な4技能（読む・書く・聞く・話す）の中の、読む力と書く力の向上に努める。		
到達目標	1. 英語の構文を理解する。 2. 英語の構文理解をもとに、英語表現を読み取る。 3. 学んだ表現を用いて、ある程度まとまった内容の英文を書く。		
テキスト	Healthy Habits for a Better Life John McConnell, Kiyoshi Yamauchi（成美堂 2021）		
参考書	必要に応じて紹介する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準
	試験	70％	学んだことの理解度を測る中間試験と定期試験で70%、授業で行うリスニング小テストで20%、授業の取り組み姿勢の10%で評価する。 中間・期末試験を未受験の場合は、評価の対象としない。
	レポート		
	小テスト	20％	
	提出物		
その他	10％		
履修上の留意事項	分からない語句はあらかじめ辞書で調べておく。		
実務経験を活かした教育内容			
学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス / Chapter 1: Sleep Is Important ①②
		授業内容	本科目の学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意事項等について説明する。 / ① vocabulary ② listening
		事前・事後学習	事前：テキストの予習を行う。 事後：学んだ内容を確認する。
	2	学習の主題	Chapter 1: Sleep Is Important ③～⑤
		授業内容	③ reading ④ grammar, writing ⑤ slash reading
		事前・事後学習	事前：テキストの予習をする。 事後：文法事項を復習する。
	3	学習の主題	Chapter 2: Is Salt Bad for Us? ①～③
		授業内容	① vocabulary ② listening ③ reading
		事前・事後学習	事前：テキストの予習をする。 事後：語彙表現を復習する。
	4	学習の主題	Chapter 2: Is Salt Bad for Us? ④⑤ / Chapter 3: Water Is Wonderful ①②
		授業内容	④ grammar, writing ⑤ slash reading / ① vocabulary ② listening
		事前・事後学習	事前：テキストの予習をする。 事後：文法事項と語彙表現を復習する。
	5	学習の主題	Chapter 3: Water Is Wonderful ③～⑤
		授業内容	③ reading ④ grammar, writing ⑤ slash reading
		事前・事後学習	事前：テキストの予習をする。 事後：文法事項を復習する。
	6	学習の主題	Chapter 4: Hot Springs: A Miracle of Nature ①～③
		授業内容	① vocabulary ② listening ③ reading
		事前・事後学習	事前：テキストの予習をする。 事後：語彙表現を復習する。
	7	学習の主題	Chapter 4: Hot Springs: A Miracle of Nature ④⑤ / 中間試験準備
		授業内容	④ grammar, writing ⑤ slash reading / 中間試験に備えての質疑応答
事前・事後学習		事前：テキストの予習をする。 事後：文法事項を復習する。	

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	8	学習の主題	中間試験
		授業内容	これまでに学んだ内容の理解度チェック
		事前・事後学習	事前：これまでの授業内容を復習する。 事後：可能な範囲で自分の解答の正誤を確認する。
	9	学習の主題	Chapter 5: Healthy Lessons from the Blue Zones ①～③
		授業内容	① vocabulary ② listening ③ reading
		事前・事後学習	事前：テキストの予習をする。 事後：語彙表現を復習する。
	10	学習の主題	Chapter 5: Healthy Lessons from the Blue Zones ④⑤ / Chapter 6: Unhealthy Habits ①②
		授業内容	④ grammar, writing ⑤ slash reading / ① vocabulary ② listening
		事前・事後学習	事前：テキストの予習をする。 事後：文法事項と語彙表現を復習する。
	11	学習の主題	Chapter 6: Unhealthy Habits ③～⑤
		授業内容	③ reading ④ grammar, writing ⑤ slash reading
		事前・事後学習	事前：テキストの予習をする。 事後：文法事項を復習する。
	12	学習の主題	Chapter 7: Let's Dance! ①～③
		授業内容	① vocabulary ② listening ③ reading
		事前・事後学習	事前：テキストの予習をする。 事後：語彙表現を復習する。
	13	学習の主題	Chapter 7: Let's Dance! ④⑤ / Chapter 8: The Story of Sugar ①②
		授業内容	④ grammar, writing ⑤ slash reading / ① vocabulary ② listening
		事前・事後学習	事前：テキストの予習をする。 事後：文法事項と語彙表現を復習する。
14	学習の主題	Chapter 8: The Story of Sugar ③～⑤	
	授業内容	③ reading ④ grammar, writing ⑤ slash reading	
	事前・事後学習	事前：テキストの予習をする。 事後：文法事項を復習する。	
15	学習の主題	これまでの授業の振り返り	
	授業内容	これまで学んだ内容の確認	
	事前・事後学習	事前：これまでの授業内容を復習する。 事後：期末試験の勉強をする。	

授業科目	英語Ⅰ（基礎）B EnglishⅠ	担当教員	大西 三佳子
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1単位
授業目的	英語の基礎的な知識を整理する。英語運用能力の向上に必要な4技能（読む・書く・聞く・話す）の中の、読む力と書く力の向上に努める。		
到達目標	1. 英語の構文を理解する。 2. 英語の構文理解をもとに、英語表現を読み取る。 3. 学んだ表現を用いて、ある程度まとまった内容の英文を書く。		
テキスト	M. Edmunds, P. Price, S. Ohtaki and T. Hikichi 「English for Nursing Students」(NAN'UN-DO,2020)		
参考書	必要に応じて紹介する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60%	授業時の態度や活動状況、提出物、小テスト、その他（以上で40%）及び定期試験等のテスト（60%）の結果から総合的に判断する。 その他：授業時の発表・ペアワークやグループ活動の取り組みの姿勢等を評価する。
	レポート		
	小テスト	20%	
	提出物	10%	
その他	10%		
履修上の留意事項	授業時は必ず辞書と教科書を持参し、小テストや提出物の準備を忘れない事。		
実務経験を活かした教育内容	加・米・英の国々で生活した者として、これらの国々の医療の様子などを講義に織り交ぜながら教科書の内容がより理解し易いように授業を行います。		
学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス
		授業内容	本科目の目的・目標・学習内容、評価方法と基準、履修上の留意事項等を説明する。
		事前・事後学習	事前：テキストの内容を確認 事後：テキスト次週分の予習
	2	学習の主題	Unit 1 WHAT IS A NURSE?
		授業内容	1. reading（看護の仕事） 2. grammar（接続詞） 3. writing（基本的な重要構文）
		事前・事後学習	事前：テキストの予習 事後：小テストと次の課の準備
	3	学習の主題	Unit 2 THE HISTORY OF NURSING
		授業内容	1. reading（看護の仕事） 2. grammar（関係詞） 3. writing（基本的な重要構文）
		事前・事後学習	事前：テキストの予習 事後：小テストと次の課の準備
	4	学習の主題	Unit 3 PATIENT-NURSE RELATIONSHIP
		授業内容	1. reading（患者さんと看護師の関係） 2. grammar（副詞節） 3. writing（基本的な重要構文）
		事前・事後学習	事前：テキストの予習 事後：小テストと次の課の準備
	5	学習の主題	Unit 4 COMMUNICATION WITH A PATIENT
		授業内容	1. reading（患者さんとの良好な会話） 2. grammar（使役を表す動詞など） 3. writing（基本的な重要構文）
事前・事後学習		事前：テキストの予習 事後：小テストと次の課の準備	

回数 (担当)	項目	内容
6	学習の主題	Unit 5 INTERCULTURAL COMMUNICATION WITH A PATIENT
	授業内容	1. reading (患者さんとの異文化コミュニケーション) 2. grammar (疑問代名詞や接続詞など) 3. writing (基本的な重要構文)
	事前・事後学習	事前：テキストの予習 事後：小テストとグループ発表の準備
7	学習の主題	PRESENTATION 1
	授業内容	グループで学習した表現を使ってスキットを作成し、発表する。
	事前・事後学習	事前：グループ発表の準備 事後：中間振り返りテストの準備
8	学習の主題	中間振り返りテスト (Unit1~Unit5)
	授業内容	これまでに学習した内容の定着度をチェックする。
	事前・事後学習	事前：前半の授業内容を復習し、中間振り返りテストの準備 事後：次の課の準備
9	学習の主題	Unit 6 DOCTOR-NURSE RELATIONSHIP
	授業内容	1. reading (医者と看護師の関係) 2. grammar (動詞句) 3. writing (基本的な重要構文)
	事前・事後学習	事前：テキストの予習 事後：小テストと次の課の準備
10	学習の主題	Unit 7 RELATED PROFESSIONALS
	授業内容	1. reading (関連ある職種の人たち) 2. grammar (動詞の形) 3. writing (基本的な重要構文)
	事前・事後学習	事前：テキストの予習 事後：小テストと次の課の準備
11	学習の主題	Unit 8 NURSES AND THE HOSPITAL
	授業内容	1. reading (看護師と病院) 2. grammar (前置詞) 3. writing (基本的な重要構文)
	事前・事後学習	事前：テキストの予習 事後：小テストと次の課の準備
12	学習の主題	Unit 9 NURSES IN THE COMMUNITY
	授業内容	1. reading (地域における看護師) 2. grammar (助動詞) 3. writing (基本的な重要構文)
	事前・事後学習	事前：テキストの予習 事後：小テストと次の課の準備
13	学習の主題	Unit 10 NURSING IN THE FUTURE
	授業内容	1. reading (未来の看護) 2. grammar (時制) 3. writing (基本的な重要構文)
	事前・事後学習	事前：テキストの予習 事後：小テストとグループ発表の準備
14	学習の主題	PRESENTATION 2
	授業内容	グループで学習した表現を使ってスキットを作成し、発表する。
	事前・事後学習	事前：グループ毎に発表の準備 事後：期末振り返りテストの準備
15	学習の主題	期末振り返りテスト (Unit 6~Unit10)
	授業内容	これまで学習した内容の定着度をチェックする。
	事前・事後学習	事前：後半の授業内容を復習し、期末振り返りテストの学習 事後：今まで学習したことを復習し、期末考査への準備

学習の主題・  
授業内容

授業科目	英語 I (基礎) C English I	担当教員	大西 三佳子
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1単位
授業目的	英語の基礎的な知識を整理する。英語運用能力の向上に必要な4技能(読む・書く・聞く・話す)の中の、読む力と書く力の向上に努める。		
到達目標	1. 英語の構文を理解する。 2. 英語の構文理解をもとに、英語表現を読み取る。 3. 学んだ表現を用いて、ある程度まとまった内容の英文を書く。		
テキスト	M. Edmunds, P. Price, S. Ohtaki and T. Hikichi 「English for Nursing Students」 (NAN'UN-DO, 2020)		
参考書	必要に応じて紹介する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	60%	授業時の態度や活動状況、提出物、小テスト、その他(以上で40%)及び定期試験等のテスト(60%)の結果から総合的に判断します。 その他: 授業時の発表・ペアワークやグループ活動の取り組みの姿勢などを評価します。
	レポート		
	小テスト	20%	
	提出物	10%	
その他	10%		
履修上の留意事項	授業時は必ず辞書と教科書を持参し、小テストや提出物の準備を忘れない事。		
実務経験を活かした教育内容	加・米・英の国々で生活した者として、これらの国々の医療の様子などを講義に織り交ぜながら教科書の内容がより理解し易いように授業を行います。		
学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス
		授業内容	本科目の目的・目標・学習内容、評価方法と基準、履修上の留意事項等を説明する。
		事前・事後学習	事前: テキストの内容を確認 事後: テキスト次週分の予習
	2	学習の主題	Unit 1 WHAT IS A NURSE?
		授業内容	1. reading (看護の仕事) 2. grammar (接続詞) 3. writing (基本的な重要構文)
		事前・事後学習	事前: テキストの予習 事後: 小テストと次の課の準備
	3	学習の主題	Unit 2 THE HISTORY OF NURSING
		授業内容	1. reading (看護の歴史) 2. grammar (関係詞) 3. writing (基本的な重要構文)
		事前・事後学習	事前: テキストの予習 事後: 小テストと次の課の準備
	4	学習の主題	Unit 3 PATIENT-NURSE RELATIONSHIP
		授業内容	1. reading (患者さんと看護師の関係) 2. grammar (副詞節) 3. writing (基本的な重要構文)
		事前・事後学習	事前: テキストの予習 事後: 小テストと次の課の準備
	5	学習の主題	Unit 4 COMMUNICATION WITH A PATIENT
		授業内容	1. reading (患者さんとの良好な会話) 2. grammar (使役を表す動詞など) 3. writing (基本的な重要構文)
事前・事後学習		事前: テキストの予習 事後: 小テストと次の課の準備	

回数 (担当)	項目	内容
6	学習の主題	Unit 5 INTERCULTURAL COMMUNICATION WITH A PATIENT
	授業内容	1. reading (患者さんとの異文化コミュニケーション) 2. grammar (疑問代名詞や接続詞など) 3. writing (基本的な重要構文)
	事前・事後学習	事前：テキストの予習 事後：小テストとグループ発表の準備
7	学習の主題	PRESENTATION 1
	授業内容	グループで学習した表現を使ってスキットを作成し、発表する。
	事前・事後学習	事前：グループ発表の準備 事後：中間振り返りテストの準備
8	学習の主題	中間振り返りテスト (Unit1~Unit5)
	授業内容	これまでに学習した内容の定着度をチェックする。
	事前・事後学習	事前：前半の授業内容を復習し、中間振り返りテストの準備 事後：次の課の準備
9	学習の主題	Unit 6 DOCTOR-NURSE RELATIONSHIP
	授業内容	1. reading (医者と看護師の関係) 2. grammar (動詞句) 3. writing (基本的な重要構文)
	事前・事後学習	事前：テキストの予習 事後：小テストと次の課の準備
10	学習の主題	Unit 7 RELATED PROFESSIONALS
	授業内容	1. reading (関連ある職種の人たち) 2. grammar (動詞の形) 3. writing (基本的な重要構文)
	事前・事後学習	事前：テキストの予習 事後：小テストと次の課の準備
11	学習の主題	Unit 8 NURSES AND THE HOSPITAL
	授業内容	1. reading (看護師と病院) 2. grammar (前置詞) 3. writing (基本的な重要構文)
	事前・事後学習	事前：テキストの予習 事後：小テストと次の課の準備
12	学習の主題	Unit 9 NURSES IN THE COMMUNITY
	授業内容	1. reading (地域における看護師) 2. grammar (助動詞) 3. writing (基本的な重要構文)
	事前・事後学習	事前：テキストの予習 事後：小テストと次の課の準備
13	学習の主題	Unit 10 NURSING IN THE FUTURE
	授業内容	1. reading (未来の看護) 2. grammar (時制) 3. writing (基本的な重要構文)
	事前・事後学習	事前：テキストの予習 事後：小テストとグループ発表の準備
14	学習の主題	PRESENTATION 2
	授業内容	グループで学習した表現を使ってスキットを作成し、発表する。
	事前・事後学習	事前：グループ毎に発表の準備 事後：期末振り返りテストの準備
15	学習の主題	期末振り返りテスト (Unit 6~Unit10)
	授業内容	これまで学習した内容の定着度をチェックする。
	事前・事後学習	事前：後半の授業内容を復習し、期末振り返りテストの学習 事後：今まで学習したことを復習し、期末考査への準備

学習の主題・  
授業内容

授業科目	英語 I (基礎) D English I	担当教員	松尾 文子
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1単位
授業目的	英語の基礎的な知識を整理する。英語運用能力の向上に必要な4技能(読む・書く・聞く・話す)の中の、読む力と書く力の向上に努める。		
到達目標	1. 英語の構文を理解する。 2. 英語の構文理解をもとに、英語表現を読み取る。 3. 学んだ表現を用いて、ある程度まとまった内容の英文を書く。		
テキスト	English Booster! Robert Hickling & Yasuhiro Ichikawa (金星堂, 2021)		
参考書	必要に応じて紹介する。		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	70%	学んだことの理解度を測る中間試験と定期試験で70%、授業で行うリスニング小テストで20%、需要の取り組み姿勢の10%で評価する。 中間・定期試験を未受験の場合は、評価の対象としない。
	レポート		
	小テスト	20%	
	提出物		
その他	10%		
履修上の 留意事項	分からない語句はあらかじめ辞書で調べておく。		
実務経験を 活かした教育内容			
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス / Unit 1: On My Way to Silicon Valley pp.12~14
		授業内容	本科目の学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意事項等を説明する。/ listening, word check, conversation, grammar (現在時制)
		事前・事後学習	事前: テキストの予習を行う。 事後: 学んだ内容を確認する。
	2	学習の主題	Unit 1: On My Way to Silicon Valley pp.15~17 / Unit 2: Welcome to San Francisco p.18
		授業内容	grammar (現在時制), reading, writing / listening, word check
		事前・事後学習	事前: テキストの予習をする。 事後: 文法事項を復習する。
	3	学習の主題	Unit 2: Welcome to San Francisco pp.19~23
		授業内容	conversation, grammar (代名詞), reading, writing
		事前・事後学習	事前: テキストの予習をする。 事後: 文法事項を復習する。
	4	学習の主題	Unit 3: First Day of Internship
		授業内容	listening, conversation, grammar (前置詞), reading, writing
		事前・事後学習	事前: テキストの予習をする。 事後: 文法事項を復習する。
	5	学習の主題	Unit 4: Fun Times, but ...
		授業内容	listening, conversation, grammar (過去時制), reading, writing
		事前・事後学習	事前: テキストの予習をする。 事後: 文法事項を復習する。
	6	学習の主題	Unit 5: They Look Good on You
		授業内容	listening, conversation, grammar (可算・不可算名詞), reading, writing
事前・事後学習		事前: テキストの予習をする。 事後: 文法事項を復習する。	

回数 (担当)	項目	内容
7	学習の主題	Unit 6: Tech Talk
	授業内容	listening, conversation, grammar (Wh 疑問文), reading, writing
	事前・事後学習	事前: テキストの予習をする。 事後: 文法事項を復習する。
8	学習の主題	中間試験
	授業内容	これまでに学んだ内容の理解度チェック
	事前・事後学習	事前: これまでの授業内容を復習する。 事後: 可能な範囲で自分の解答の正誤を確認する。
9	学習の主題	Unit 7: You're Sitting on It ...
	授業内容	listening, conversation, grammar (進行形), reading, writing
	事前・事後学習	事前: テキストの予習をする。 事後: 文法事項を復習する。
10	学習の主題	Unit 8: Going Green
	授業内容	listening, conversation, grammar (助動詞), reading, writing
	事前・事後学習	事前: テキストの予習をする。 事後: 文法事項を復習する。
11	学習の主題	Unit 9: Time to Work
	授業内容	listening, conversation, grammar (will & be going to), reading, writing
	事前・事後学習	事前: テキストの予習をする。 事後: 文法事項を復習する。
12	学習の主題	Unit 10: Know Your Business
	授業内容	listening, conversation, grammar (比較級・最上級), reading, writing
	事前・事後学習	事前: テキストの予習をする。 事後: 文法事項を復習する。
13	学習の主題	Unit 11: The Job Interview
	授業内容	listening, conversation, grammar (現在完了), reading, writing
	事前・事後学習	事前: テキストの予習をする。 事後: 文法事項を復習する。
14	学習の主題	Unit 12: Is Your Company Right for You ?
	授業内容	listening, conversation, grammar (接続詞), reading, writing
	事前・事後学習	事前: テキストの予習をする。 事後: 文法事項を復習する。
15	学習の主題	これまでの授業振り返り
	授業内容	これまで学んだこの内容の確認
	事前・事後学習	事前: これまでの授業内容を復習する。 事後: 期末試験の勉強をする。

学習の主題・  
授業内容

授業科目	英語Ⅱ（会話） English II (Conversation)	担当教員	David Flenner / Peter Reemst ※担当教員は、クラス別
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1単位
授業目的	The purpose of this course is to build basic and intermediate communicative skills for a clinical setting.		
到達目標	1. Building confidence in order to communicate with patients in English 2. Improving students' knowledge of language used in a clinical setting 3. Building an awareness of the needs of English speaking patients		
テキスト	Simon Capper 「Bedside Manner Beginner (New Edition)」 (Perceptia Press)		
参考書	なし		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験		1. Worksheets 30% 2. Class Participation (Attendance and Question Response) 10% 3. Mid-Term Test 30% 4. Final Test 30%
	レポート		
	小テスト	60%	
	提出物	30%	
その他	10%		
履修上の 留意事項	Students are expected to participate in conversation and exercises.		
実務経験を 活かした教育内容			
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1	学習の主題	Orientation
		授業内容	Classroom Language and Instruction
		事前・事後学習	Pre-Study Vocabulary for Unit 1
	2	学習の主題	Unit 1
		授業内容	Meeting a New Patient
		事前・事後学習	Pre-Study Vocabulary for Unit 2
	3	学習の主題	Unit 2
		授業内容	Talking About Symptoms
		事前・事後学習	Pre-Study Vocabulary for Unit 3
	4	学習の主題	Unit 3
		授業内容	In-Patient Orientation
		事前・事後学習	Pre-Study Vocabulary for Unit 4
	5	学習の主題	Unit 4
		授業内容	Doing the Rounds
		事前・事後学習	Pre-Study Vocabulary for Unit 5
	6	学習の主題	Unit 5
		授業内容	Explaining Medication
		事前・事後学習	Pre-Study Vocabulary for Unit 6
	7	学習の主題	Unit 6
		授業内容	More Symptoms
		事前・事後学習	Pre-Study Vocabulary for Unit 7
	8	学習の主題	Unit 7
		授業内容	Review / Test 1: Units 1-6
		事前・事後学習	Pre-Study Vocabulary for Unit 8
	9	学習の主題	Unit 8
		授業内容	Accidents and Injuries
事前・事後学習		Pre-Study Vocabulary for Unit 9	

回数 (担当)	項目	内容	
10	学習の主題	Unit 9	
	授業内容	Patient Examination	
	事前・事後学習	Pre-Study Vocabulary for Unit 10	
11	学習の主題	Unit 10	
	授業内容	Taking a Medical History	
	事前・事後学習	Pre-Study Vocabulary for Unit 11	
12	学習の主題	Unit 11	
	授業内容	Lifestyle and Diet	
	事前・事後学習	Pre-Study Vocabulary for Unit 12	
13	学習の主題	Unit 12	
	授業内容	Explaining Hospital Tests	
	事前・事後学習	Homework-Review Sheet	
14	学習の主題	Unit 13	
	授業内容	Review	
	事前・事後学習	Study for Review Test	
15	学習の主題	Review/Test 2	
	授業内容	Units 8-12	
	事前・事後学習	Not Applicable	

学習の主題・  
授業内容

授業科目	表現技法Ⅰ（読解・分析）A・C Presentation Skills I (Reading Comprehension and Analyses)		担当教員	高木 維
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・前期		選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1単位	
授業目的	本科目は、大学および社会において求められる一般的な作文技術の習得を目的とする。文章表現の面では、いわゆる文学作品的な美文ではなく、学術的表現を用いて、文法ミスのない平易な文を書くことを目指す。内容構成の面では、三部構成に則り、論拠・出典を明確にしたレポートの作成を目指す。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. レポートにふさわしい表現で、文法ミスのない文を書く技能を身に付ける。</li> <li>2. 他人発の情報を的確に利用し、出典を明示する技能を身に付ける。</li> <li>3. 三部構成の重要性を理解し、レポートの構成を考える能力を身に付ける。</li> <li>4. レポートを作成するための全体的なプロセスを把握する。</li> </ol>			
テキスト	なし			
参考書	奥田統己、神成洋、佐々木冠、本間徹夫、山崎哲永 共著「読みやすく考えて調べて書く」(学術図書出版) 河野哲也「レポート・論文の書き方入門」(慶應義塾大学出版会)			
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準	
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 レポート・その他の提出物・授業態度により総合的に評価する。 ・レポート (50%)：中間レポート・期末レポートの得点 ・提出物 (30%)：課題①・課題②の取り組み ・授業態度 (20%)：講義内活動への取り組みの姿勢	
	レポート	50%		
	小テスト			
	提出物	30%		
その他	20%			
履修上の留意事項	講義内活動を踏まえてレポートを執筆していくため、一度の欠席によって課題への取り組みが困難になることが予想される。そのため、欠席した場合は、教員にメールを送って講義資料・講義スライドを PC で受け取る、というフォローアップが不可欠である。			
実務経験を活かした教育内容				
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	ガイダンス／文体	
		授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本科目の目的、評価基準</li> <li>・レポート（論説文）にふさわしい文体</li> </ul>	
		事前・事後学習	・宿題に取り組む	
	2	学習の主題	段落構成①／論説文の語彙	
		授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・段落構成の概要と、例示・対比の段落</li> <li>・レポートにおいて避けるべき表現</li> </ul>	
		事前・事後学習	・宿題に取り組む	
	3	学習の主題	段落構成②／文法ミス	
		授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見・論述の段落</li> <li>・レポートにおいて頻出する文法ミス</li> </ul>	
		事前・事後学習	・課題①（レポートらしい文体の段落を PC で執筆）に取り組む	
	4	学習の主題	引用文①	
		授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引用文献欄の書きかた</li> <li>・引用文の示しかた</li> </ul>	
		事前・事後学習	・課題①を提出する	
	5	学習の主題	引用文②	
		授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文献の内容を短くまとめる方法</li> <li>・複数の資料を、1つの段落にまとめる活動</li> </ul>	
事前・事後学習		・課題②（引用文を含む段落を PC で執筆）に取り組む		

回数 (担当)	項目	内容
6	学習の主題	報告型レポート／読解
	授業内容	・文献の内容紹介が目的となるレポートの構成 ・資料読解と引用文の作成
	事前・事後学習	・課題②を提出する
7	学習の主題	アウトライン／表記
	授業内容	・レポート執筆の準備に必要なアウトラインの作成 ・レポートにおいて避けるべき文字遣い（漢字・数字・記号）
	事前・事後学習	・アウトラインを完成させ、中間レポートを執筆する
8	学習の主題	論述型レポート／文献調査
	授業内容	・事実に基づいて意見を提示するレポートの構成 ・期末レポートのテーマ告知と文献調査の方法
	事前・事後学習	・中間レポートを提出する
9	学習の主題	論点整理
	授業内容	・論点（何について論じるのか）の説明に必要となるもの
	事前・事後学習	・ワークノートを用いて、文献調査・論点整理を進める
10	学習の主題	考察
	授業内容	・自説の正しさを論証するために必要となるもの
	事前・事後学習	・引き続き、ワークノートを用いて考察を進める
11	学習の主題	個人相談①／結論
	授業内容	・アウトラインにかんする個人相談・教員のチェック ・レポートの結論の書きかた
	事前・事後学習	・アウトラインを完成させ、持参する
12	学習の主題	個人相談②／序論
	授業内容	・アウトラインにかんする個人相談・教員のチェック ・レポートの序論の書きかた
	事前・事後学習	・アウトラインを完成させ、持参する。また、期末レポートの執筆に取り組む
13	学習の主題	推敲
	授業内容	・批判的にレポートを読むための演習 ・期末レポート（初稿）の推敲
	事前・事後学習	・期末レポート（初稿）を書き上げ、持参する
14	学習の主題	さまざまな構成
	授業内容	・投稿規定から、レポート全体の構成を想定するグループワーク
	事前・事後学習	・期末レポート（最終稿）を2部印刷し、提出する
15	学習の主題	総括
	授業内容	・期末レポート（最終稿）の読み合い ・後期に執筆するレポートのテーマ発表
	事前・事後学習	・後期に向け、告知されたテーマについて情報を集める

学習の主題・  
授業内容

授業科目	表現技法Ⅰ（読解・分析）B・D Presentation SkillsⅠ (Reading Comprehension and Analyses)	担当教員	安永 立子
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1単位
授業目的	言語表現とは何か、という理論的な側面を学び、日本語表現に関する学術的な基礎知識を習得する。そのうえで、知的活動でも職業生活や社会生活でも必要となる実践的な日本語の運用能力を身につける。		
到達目標	1. 言語表現に関する基本的な学術用語を理解する。 2. 日本語による文章作成の基本的な能力を身につける。 3. 文章を書く際の発想力、構成力を学習し、適宜応用できる。		
テキスト	なし		
参考書	授業時間内にその都度紹介する。		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。
	レポート	40%	毎回の講義で提出を課す小課題に対して、4点満点で採点し、60点満点として評価する（3分の1以上の欠席は評価の対象外）。授業に対する取り組み姿勢についても、採点に適宜加味する。授業内、また事後学習として課す実作レポートをその都度採点し、合計を40点満点に換算して、100点満点で上記の目標の達成度を評価する。なお、授業内で課す3回の実作レポートを2回以上提出できなかった場合は評価の対象としない。
	小テスト		
	提出物 その他	30% 30%	
履修上の 留意事項	授業に欠席した場合は、欠席日のワークシートを必ず受け取ること。		
実務経験を 活かした教育内容			
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1	学習の主題	オリエンテーション／本科目の説明と履修上の注意 レポートについて／適切な文を書くためのエクササイズ
		授業内容	本科目の目的、学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意点について、説明する。 表現方法を学ぶにあたって、レポートを書くとはどういうことか、概略を学ぶ。 「非文」「悪文」の例を学生各自が添削し、正しい文についての理解を深める。
		事前・事後学習	事前にシラバスを読み、本科目履修についての疑問等を明らかにしておく。 授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること。
	2	学習の主題	論文の文体を理解する
		授業内容	間違いやすい語彙の知識を確認する。話し言葉と書き言葉の違いについて判断できる能力を身につける。論述に適した文体について学ぶ。
		事前・事後学習	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること。
	3	学習の主題	説明的文章の方法（1）
		授業内容	知識や情報を伝えるためには、何が重要か理解する。読者をどのように想定するかについて学ぶ。
		事前・事後学習	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること。
	4	学習の主題	説明的文章の方法（2）／説明文の製作
		授業内容	言語の抽象化能力とカテゴリー理論について学ぶ。講義をもとに説明文を書く。
		事前・事後学習	授業時間内に書き上げられなかった場合は次週に提出すること（評価は下がるが、採点対象とする）。
	5	学習の主題	レポートの基本的構成／発想から文章へ（1）
		授業内容	レポートの基本構成とレポートの種類について学ぶ。
事前・事後学習		授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること。	

回数 (担当)	項目	内容
6	学習の主題	資料の集め方／引用書誌情報の記し方／「問題提起のある文章」を組み立てる
	授業内容	レポート作成に当たって、どのように資料を収集するか学ぶ。また、レポート内に引用する資料について、その引用の方法や書誌情報の記し方について学ぶ。さらに、「問題提起のある文章」の構成を理解する。
	事前・事後学習	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること。
7	学習の主題	レポート実作②「問題提起のある文章」の作成に向けての個人指導
	授業内容	レポート実作②「問題提起のある文章」の作成に向けて、個人指導を行う。 * 情報処理室で授業実施予定
	事前・事後学習	次回授業開始時間までに、レポート実作②「問題提起のある文章」を提出する。
8	学習の主題	レポート実作②「問題提起のある文章」の提出／発想から文章へ(2)／賛否両論を想定する
	授業内容	様々なところから発想した観点を文章に発展させる技法を身につける。賛否両論が可能な文を考えることで、論理的な文章の構築を学ぶ。
	事前・事後学習	授業開始時間までに、レポート実作②「問題提起のある文章」を提出する。提出できなかった場合は次週提出すること(評価は下がるが、採点対象とする)。
9	学習の主題	論文の構造／賛否両方の論を書いてみる
	授業内容	ある論題に対して、賛否両方の視点から文章を構成してみることで、論理の骨格を理解する。
	事前・事後学習	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること。
10	学習の主題	レポートにおける「事実」と「意見」の区別／段落について／中心文と展開文
	授業内容	レポートの記述において、「事実」と「意見」をどのように区別して扱うかについて学ぶ。また、段落とそれを構成する中心文、展開文の概念を理解する。
	事前・事後学習	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること。
11	学習の主題	レポート実作③「主張文」の作成に向けての個人指導
	授業内容	レポート実作③「主張文」の作成に向けて、個人指導を行う。 * 情報処理室で授業実施予定
	事前・事後学習	次回授業開始時間までに、レポート実作③「主張文」を提出する。
12	学習の主題	レポート実作③「主張文」の提出／他人の文章に対する批判を構築する
	授業内容	他人の文章の論理構造を読み解き、批判を構築する方法を身につける。
	事前・事後学習	授業開始時間までに、レポート実作③「主張文」を提出する。提出できなかった場合は次週提出すること(評価は下がるが、採点対象とする)。
13	学習の主題	論理的文章の基本
	授業内容	要約の方法を確認する。論文の文体を身につける。
	事前・事後学習	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること。
14	学習の主題	情報を整理する
	授業内容	データの読み取りの基本を学ぶ。論文の論理構築の方法を理解する。
	事前・事後学習	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること。
15	学習の主題	敬語と手紙・メール文の基本
	授業内容	日常的な言語によるコミュニケーションの訓練として、敬語を学ぶ。その運用例として、手紙、またはメール文を書いてみる。
	事前・事後学習	授業時間に使用したワークシートを見直し、学習内容の習得に努めること。

学習の主題・  
授業内容

授業科目	表現技法Ⅱ（討議・発表）A・C Presentation Skills II (Academic Presentation)		担当教員	高木 維
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・後期		選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1単位	
授業目的	本科目は、大学および社会において求められるプレゼンテーション技術の習得を目的とする。レポート執筆の過程では討議を行い、他者の見解・批判を取り込んで更に考察を進める。最終的に、レポートの口頭発表会を体験することによって、分かりやすいスピーチ・資料とはどういったものかを理解する。			
到達目標	1. 討議において、肯定的・批判的意見を出す技能を身に付ける。 2. レポートの内容を短くまとめ、発表する技能を身に付ける。 3. レポートとは異なる、発表時の配布資料を作成する技能を身に付ける。			
テキスト	なし			
参考書	奥田統己、神成洋、佐々木冠、本間徹夫、山崎哲永 共著「読みやすく考えて調べて書く」(学術図書出版) 河野哲也「レポート・論文の書き方入門」(慶應義塾大学出版会)			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準	
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 提出物、発表・討議の内容により総合的に評価する。 ・レポート(30%)：レポートの得点 ・提出物(40%)：課題①・課題②・発表資料の取り組み ・授業態度(30%)：講義内活動への取り組みの姿勢	
	レポート	30%		
	小テスト			
	提出物	40%		
その他	30%			
履修上の 留意事項	前期と同様、欠席した場合は、教員にメールを送って講義資料をPCで受け取る、というフォローアップが不可欠である。			
実務経験を 活かした教育内容				
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	ガイダンス／リサーチクエスチョン	
		授業内容	・後期の到達目標・注意事項の説明 ・リサーチクエスチョンの考えかた・絞り込みかた	
		事前・事後学習	・夏休み中に情報を収集し、テーマを選んでおく ・利用すべき文献・そのコピーを手元に控えておく	
	2	学習の主題	図表	
		授業内容	・レポートにおける図表の利用のしかた	
		事前・事後学習	・状況調査を続行する ・課題①(図表の利用について)に取り掛かる	
	3	学習の主題	資料の作成	
		授業内容	・討議・発表で利用する、配布資料のまとめかた	
		事前・事後学習	・状況調査・考察を続け、資料にまとめる ・課題①を提出する	
	4	学習の主題	討議	
		授業内容	・一般的な討議の流れ ・討議の練習	
		事前・事後学習	・状況調査・考察を続け、資料にまとめる	
	5	学習の主題	討議の実践①	
		授業内容	・現時点での状況調査結果・考察を資料にまとめ、グループで討議	
		事前・事後学習	・討議に利用する資料を指定の枚数印刷し、持参する	
	6	学習の主題	討議の実践②	
		授業内容	・現時点での状況調査結果・考察を資料にまとめ、グループで討議	
事前・事後学習		・討議の結果をプリントにまとめる(課題②)		

回数 (担当)	項目	内容
7	学習の主題	アウトラインの作成／個人相談①
	授業内容	・ 討議結果を踏まえ、レポートのアウトラインを作成 ・ アウトラインにかんする、教員のチェック・個人相談
	事前・事後学習	・ 課題②（討議結果のまとめ）を提出する ・ アウトラインを作成し、持参する
8	学習の主題	序論・結論／個人相談②
	授業内容	・ 序論・結論の書きかた ・ アウトラインにかんする、教員のチェック・個人相談
	事前・事後学習	・ アウトラインを作成し、持参する ・ 相談結果をもとに、レポートを次週までに完成させる
9	学習の主題	口頭発表／原稿作成
	授業内容	・ 発表時に気を付けるべきこと ・ 発表時間内に収まる原稿作成
	事前・事後学習	・ レポートを提出する
10	学習の主題	口頭発表の練習 / 質疑応答
	授業内容	・ 口頭発表用の原稿を持参し、グループで発表練習をする ・ 発表会における、一般的な質問のしかた、回答のしかた
	事前・事後学習	・ 発表用原稿を作成し、持参する ・ レポート発表会の発表資料データをメールで送信する
11	学習の主題	発表会①
	授業内容	・ 発表時間 4-5 分、質疑応答 5 分までの発表を行う
	事前・事後学習	・ 配布用の発表資料を準備し、発表に備える ・ 聴衆側は資料に目を通し、質疑に備える
12	学習の主題	発表会②
	授業内容	・ 発表時間 4-5 分、質疑応答 5 分までの発表を行う
	事前・事後学習	・ 配布用の発表資料を準備し、発表に備える ・ 聴衆側は資料に目を通し、質疑に備える
13	学習の主題	発表会③
	授業内容	・ 発表時間 4-5 分、質疑応答 5 分までの発表を行う
	事前・事後学習	・ 配布用の発表資料を準備し、発表に備える ・ 聴衆側は資料に目を通し、質疑に備える
14	学習の主題	発表会④
	授業内容	・ 発表時間 5 分、質疑応答 5 分までの発表を行う
	事前・事後学習	・ 配布用の発表資料を準備し、発表に備える ・ 聴衆側は資料に目を通し、質疑に備える
15	学習の主題	総括
	授業内容	・ レポート・発表資料の返却、前期・後期の総括 ・ 講義内容を復習する練習問題
	事前・事後学習	なし

学習の主題・  
授業内容

授業科目	表現技法Ⅱ（討議・発表）B・D Presentation Skills Ⅱ (Academic Presentation)		担当教員	安永 立子
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1 年次・後期		選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1 単位	
授業目的	様々な場面で必要とされる「プレゼンテーション力」を養い、人間関係を構築するコミュニケーションのあり方を学習する。また、多人数の前で話す能力を身につけるとともに、的確な情報伝達の方法を学習する。さらに、自分の主張を論理的に表現する方法を学び、複数人による討議を有意義に進行させることができる。			
到達目標	1. 日本語による発表や討論のための基本的な方法論を身につける。 2. 発話による他人とのコミュニケーションを円滑に行うために、必要な知識を習得する。 3. 複数人による討議に際して、論理的な議論を行うことを可能にする。			
テキスト	なし			
参考書	授業時間内にその都度紹介する。			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準	
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。	
	レポート		毎回の講義への積極的な参加に対して、4 点満点で採点し、60 点満点として評価する（3 分の 1 以上の欠席は評価の対象外）。授業内での口頭発表及び、その準備のために作成する課題と事後の振り返り課題をその都度採点し、合計を 40 点満点に換算して、100 点満点で上記の目標の達成度を評価する。なお、授業内で課す 3 回の口頭発表のうち、2 回以上実施できなかった場合は評価の対象としない。	
	小テスト		その他：口頭発表、授業への取り組み姿勢	
	提出物	40%		
	その他	60%		
履修上の 留意事項	授業に欠席した場合は、欠席日のワークシートを必ず受け取ること。			
実務経験を 活かした教育内容				
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	「口頭発表」について学ぶ。	
		授業内容	ガイダンス：本科目の目的、学習内容と方法、評価方法と基準、履修上の留意点について、説明する。 口頭による発表の特徴と留意点について学習する。次回のスピーチ原稿を作成する。	
		事前・事後学習	事前にシラバスを読み、履修上の疑問点を確認しておく。 担当者は次週のスピーチのリハーサルをしておく。	
	2	学習の主題	実践 (A) 3 分間スピーチ (1)	
		授業内容	1 対多のコミュニケーション実践として、スピーチをする。 自分の伝達したいメッセージを相手に伝える工夫を考える。	
		事前・事後学習	クラスメートによる相互批評から自分の発表の反省点を考える。 担当者は次週のスピーチのリハーサルをしておく。	
	3	学習の主題	実践 (A) 3 分間スピーチ (2)	
		授業内容	1 対多のコミュニケーション実践として、スピーチをする。 自分の伝達したいメッセージを相手に伝える工夫を考える。	
		事前・事後学習	クラスメートによる相互批評から自分の発表の反省点を考える。 プレゼンテーションを行う発表主題を決める。	
	4	学習の主題	「プレゼンテーション」について学ぶ。 プレゼンテーション発表用資料、及び、発表原稿の作成。	
		授業内容	プレゼンテーションの方法と留意点について学習する。 自分が行う発表に必要な視覚的資料及び、発表原稿を作成する。 * 情報処理室で授業実施予定	
事前・事後学習		プレゼンテーションに必要な視覚的資料及び、発表原稿を作成する。		

回数 (担当)	項目	内容
5	学習の主題	プレゼンテーション発表用資料、及び、発表原稿の作成/スピーチのまとめと反省
	授業内容	自分が行う発表に必要な視覚的資料を作成する。 * 情報処理室で授業実施予定
	事前・事後学習	プレゼンテーションに必要な視覚的資料及び、発表原稿を作成する。 次週発表者はリハーサルをしておくこと。
6	学習の主題	実践 (B) プレゼンテーション (1)
	授業内容	視覚資料を使用した口頭発表の実践として、プレゼンテーションを行う。 自分の主張を相手に理解してもらう発表のしかたを学ぶ。
	事前・事後学習	発表者はプレゼンテーションの振り返りシートを作成し、次週に提出。次週発表者はリハーサルをしておくこと。
7	学習の主題	実践 (B) プレゼンテーション (2)
	授業内容	視覚資料を使用した口頭発表の実践として、プレゼンテーションを行う。 自分の主張を相手に理解してもらう発表のしかたを学ぶ。
	事前・事後学習	発表者はプレゼンテーションの振り返りシートを作成し、次週に提出。 次週発表者はリハーサルをしておくこと。
8	学習の主題	実践 (B) プレゼンテーション (3)
	授業内容	視覚資料を使用した口頭発表の実践として、プレゼンテーションを行う。 自分の主張を相手に理解してもらう発表のしかたを学ぶ。
	事前・事後学習	発表者はプレゼンテーションの振り返りシートを作成し、次週に提出。 次週発表者はリハーサルをしておくこと。
9	学習の主題	実践 (B) プレゼンテーション (4)
	授業内容	視覚資料を使用した口頭発表の実践として、プレゼンテーションを行う。 自分の主張を相手に理解してもらう発表のしかたを学ぶ。
	事前・事後学習	発表者はプレゼンテーションの振り返りシートを作成し、次週に提出。 担当するディベート論題について知識を蓄積する。
10	学習の主題	「ディベート」について学ぶ/ディベート論題についての情報収集
	授業内容	ディベートについての基本的な知識を学習し、実践に向けての計画を立てる。 各チームごとに、役割分担を決定し、ディベート論題についての情報収集を行う。 * 情報処理室で授業実施予定
	事前・事後学習	ディベートチーム内で作業を分担し、必要な調査を行う。 ディベートチーム内で分担し、立論や反対尋問等を作成する。
11	学習の主題	ディベートの構築/プレゼンテーションのまとめと反省
	授業内容	各チームごとに、論点の整理、全体の原稿作成、役割分担の確認、などを行う。 * 情報処理室で授業実施予定
	事前・事後学習	次回以降のディベート本番に向けてリハーサルをしておく。
12	学習の主題	実践 (C) ディベート (1)
	授業内容	2チームがディベートを実践し、他チームは判定をする。 論理的に論争すること、論理を評価することを学習する。
	事前・事後学習	次回以降のディベート本番に向け、担当チームはリハーサルをしておく。
13	学習の主題	実践 (C) ディベート (2)
	授業内容	2チームがディベートを実践し、他チームは判定をする。論理的に論争すること、論理を評価することを学習する。
	事前・事後学習	次回以降のディベート本番に向け、担当チームはリハーサルをしておく。
14	学習の主題	実践 (C) ディベート (3)
	授業内容	2チームがディベートを実践し、他チームは判定をする。論理的に論争すること、論理を評価することを学習する。
	事前・事後学習	次回以降のディベート本番に向け、担当チームはリハーサルをしておく。

学習の主題・  
授業内容

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	15	学習の主題	実践 (C) ディベート (4) ディベートのまとめと反省
		授業内容	2チームがディベートを実践し、他チームは判定をする。 論理的に論争すること、論理を評価することを学習する。
		事前・事後学習	後期の講義全体を振り返り、発表・討議の際に注意すべき点を確認しておくこと。

授業科目	心理学 Psychology	担当教員	小島 康次
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	看護実践における重要な要素の1つに、患者の気持ちを理解することがあげられます。患者の話に耳を傾け、患者の気持ちを受け入れ共感するという姿勢で看護を行うことが益々、求められるようになってきました。この授業では、心理学の基礎を学ぶという一般的な目的のほかに、看護職を目指す皆さんの実践に焦点を当てて、看護に関連する例や話題にも触れる講義を行います。テキストは、2部構成になっていて、前半(1部)は基礎的メカニズム、後半(2部)は医療場面における応用例となっています。通年30時間用のテキストですが、1部を中心に、2部の応用編の中からテーマを絞って詳しく紹介し、心理学の実践的な考え方を理解してもらいます。		
到達目標	心のメカニズムを客観的な方法によって知ることの重要性を理解し、看護場面における応用について学ぶ。		
テキスト	長田久雄編著「看護学生のための心理学(第2版)」(医学書院)		
参考書	なし		
評価方法・基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準
	試験	100%	目標の到達状況を定期試験で評価する。 定期試験(60分):講義内容の理解、獲得した知識について確認する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の留意事項	事後学習としてテキストの該当する章の末尾にある“WORKS”を各自でやっておくこと。		
実務経験を活かした教育内容			
学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容
	1	学習の主題	第1章:感覚・知覚の心理:A 感覚
		授業内容	1 感覚の種類と性質、2 感覚の加齢変化
		事前・事後学習	テキスト第1章のAを予習、復習すること。
	2	学習の主題	第1章:感覚・知覚の心理:B 知覚
		授業内容	1 知覚の諸現象、2 形と運動の知覚
		事前・事後学習	テキスト第1章のBを予習、復習すること。
	3	学習の主題	第2章:学習・記憶の心理:A 学習
		授業内容	1 学習とは何か 2 学習のしくみ
		事前・事後学習	テキスト第2章のAを予習、復習すること。
	4	学習の主題	第2章:学習・記憶の心理:B 記憶
		授業内容	1 記憶とは、2 忘却 3 記憶の種類 4 日常記憶
		事前・事後学習	テキスト第2章のBを予習、復習すること。
	5	学習の主題	第3章:感情・動機の心理:A 感情・情緒
		授業内容	1 感情・情緒とは何か、~5 事例でみる感情・情緒の心理
		事前・事後学習	テキスト第3章のAを予習、復習すること。
	6	学習の主題	第3章:感情・動機の心理:B 動機・欲求
		授業内容	1 動機・欲求とは何か、~4 事例でみる動機・欲求の心理
		事前・事後学習	テキスト第3章のBを予習、復習すること。
	7	学習の主題	第4章:性格・知能の心理:A 性格研究の方法と性格理論
		授業内容	1 性格に関する概念と用法、~4 相関的研究法による性格理論
		事前・事後学習	テキスト第4章のAを予習、復習すること。
	8	学習の主題	第4章:性格・知能の心理:B パーソナリティの障害と成熟
		授業内容	1 パーソナリティの障害とは何か、2 境界性障害 3 成熟した人格
事前・事後学習		テキスト第4章のBを予習、復習すること。	

回数 (担当)	項目	内容
9	学習の主題	第4章：性格・知能の心理：C 知的機能と創造性
	授業内容	1 知能テスト、2 知的障害、3 創造性、4 思考の様式
	事前・事後学習	テキスト第4章の C を予習、復習すること。
10	学習の主題	第5章：発達心理：A 乳幼児期・児童期
	授業内容	1 乳幼児期・児童期の発達段階、～4 乳幼児期・児童期の心理的問題
	事前・事後学習	テキスト第5章の A を予習、復習すること。
11	学習の主題	第6章：社会・集団の心理：A 社会的認知、B 社会的態度
	授業内容	A 1 対人認知、～3 帰属、B 1 態度とは何か、2 態度変化と説得
	事前・事後学習	テキスト第6章 A、B を予習、復習すること。
12	学習の主題	第6章：社会・集団の心理：C 社会的スキル、D 集団の心理
	授業内容	C 1 社会的スキル、2 モデル、D 1 集団とは、2 ～リーダーシップ
	事前・事後学習	テキスト第6章 C、D を予習、復習すること。
13	学習の主題	第7章：健康の心理と人間理解：A 患者の理解
	授業内容	1 患者行動の理解と心理学、2 ストレス理論、3 主観的統制と健康
	事前・事後学習	テキスト第7章 A を予習、復習すること。
14	学習の主題	第9章：カウンセリングと心理療法：B 精神分析
	授業内容	B 1 精神分析とは何か、～4 医療場面でどう応用できるか
	事前・事後学習	テキスト第9章Bを予習、復習すること。
15	学習の主題	第9章：カウンセリングと心理療法：E 認知行動療法
	授業内容	1 行動療法の特徴、～6 認知行動療法の人間観
	事前・事後学習	テキスト第9章Eを予習、復習すること。

学習の主題・  
授業内容

授業科目	倫理学 Ethics	担当教員	村上 友一
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	生命倫理を考える上で必要な、倫理的な思考力を養うとともに、生命倫理で扱われる諸問題を掘り下げて思考するための基礎力を養う。		
到達目標	1. 決定主体である自己の成立基盤を理解する。 2. 倫理的な問題に対して自分自身で考える力を養成する。 3. 自分自身の考えを正しく表現する力を養い、コミュニケーション能力の向上をはかる。		
テキスト	特に指定しない。		
参考書	授業内で紹介する。		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験		目標の到達状況を下記の方法で評価する。 レポート 50%、提出物 25%、その他(取り組み姿勢) 25%によって評価する。 なお、その他には、「授業内で行われる議論への積極的な参加姿勢」も含まれる。
	レポート	50%	
	小テスト		
	提出物	25%	
その他	25%		
履修上の 留意事項	本講義では自分で考え、それを文章化する時間を設ける(上記、提出物)。この時間は私語を認めるので、友人とのコミュニケーションを通して自分の考えを深めて欲しい。講義がすべて終了した後にレポートが課される。		
実務経験を 活かした教育内容			
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス
		授業内容	生命倫理や現代社会において重視される自己決定権の背後に自由主義があることを確認する。
		事前・事後学習	講義ノートを見返して、復習して次回の授業にのぞむこと。
	2	学習の主題	自由主義の帰結
		授業内容	自由主義を突き詰めると、社会規範の多くが浸食されるほか、いくつかの問題が生じることを確認する。
		事前・事後学習	講義ノートを見返して、復習して次回の授業にのぞむこと。
	3	学習の主題	カントのリバタリアニズム批判
		授業内容	カントの哲学的立場から「自由主義」を批判的に見たときに、何が得られ、何が失われるかを見ておく。
		事前・事後学習	講義ノートを見返して、復習して次回の授業にのぞむこと。
	4	学習の主題	自己決定の成立基盤としての平等
		授業内容	リバタリアンが考えるように平等が自由を破壊するのではなく、むしろ平等が自由を保障することを確認する。
		事前・事後学習	講義ノートを見返して、復習して次回の授業にのぞむこと。
	5	学習の主題	平等概念の再検討(1)
		授業内容	平等概念は複雑であるので、これを分析・整理しておく。
		事前・事後学習	講義ノートを見返して、復習して次回の授業にのぞむこと。
	6	学習の主題	平等概念の再検討(2)
		授業内容	いくつかの事例について考えることを通して、平等と不平等の理解を深める。
		事前・事後学習	講義ノートを見返して、復習して次回の授業にのぞむこと。
	7	学習の主題	自己と共同体の関係を問い直す
		授業内容	自己決定の主体である個人がどのような存在であるのかを、これまでの考察を整理しつつ解明していく。
事前・事後学習		講義ノートを見返して、復習して次回の授業にのぞむこと。	

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	8	学習の主題	自己の成立基盤としての共同体：国家・家族・自己
		授業内容	インフォームド・コンセントの主体となるべき個人のあり方を明確にし、それによってインフォームド・コンセントを別の角度からとらえる視点を提供する。
		事前・事後学習	レポートに備えて、理解を整理し、不明な点を明確にすること。

授業科目	現代社会論 Issues in Modern Society	担当教員	翁 康健
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	激変し続ける現代社会において、その変化に主体的に対応する必要がある。現代を生きる、医療人としての最低限の社会的常識を理解することがこの授業の目的である。		
到達目標	1. 現代社会の諸問題を理解し、自らの対処法が模索できる。 2. 地域社会・家族・学校など身近な制度の仕組みを理解し、問題を発見し、対処法を模索できる。 3. 現代社会を動かす仕組みを理解し、その対処方法を模索できる。		
テキスト	特に指定しない。適宜プリントを配布する。		
参考書	適宜紹介する。		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	定期試験 (60%) と講義内で数回実施するミニ・レポート (40%) から目標の到達状況を評価する。
	試験	60%	
	レポート		
	小テスト		
	提出物	40%	
その他			
履修上の 留意事項	・ 講義中に他の受講者の妨げとなる行為があった場合、講義室からの退出を命じることがある。 ・ 講義の進捗状況によって講義計画を変更する場合がある。		
実務経験を 活かした教育内容			
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1	学習の主題	イントロダクション
		授業内容	・ 講義の概要、方法、評価の説明 ・ 現代社会の捉え方 (社会的な視点) ・ 日常生活の違和感を大切に
		事前・事後学習	・ 講義内で実施するミニ・レポートで講義内容を整理 (全講義内で数回実施予定) ・ キーワードを指示するのでそれに関連する新聞記事を読む
	2	学習の主題	選挙はなぜ存在するのか？ 国民国家としての日本
		授業内容	・ 近代国民国家とは何か？ ・ 政党政治と選挙制度 ・ 基本的な人権と国民
		事前・事後学習	・ 講義内で実施するミニ・レポートで講義内容を整理 (全講義内で数回実施予定) ・ キーワードを指示するのでそれに関連する新聞記事を読む
	3	学習の主題	なぜお金がないと、生活できないのか？ 資本主義社会とは？
		授業内容	・ 命の値段？ なぜ、働かなければいけないのか？ ・ 国民所得と豊かさの関係 (正規雇用と非正規雇用の違い) ・ 格差社会を読み解く
		事前・事後学習	・ 講義内で実施するミニ・レポートで講義内容を整理 (全講義内で数回実施予定) ・ キーワードを指示するのでそれに関連する新聞記事を読む
	4	学習の主題	結婚!? そして、家族？ 家族とは何か？
		授業内容	・ 晩婚・非婚時代 - 結婚していない女性の4つの条件 ・ 核家族が標準か？ いろいろある世界の家族形態
		事前・事後学習	・ 講義内で実施するミニ・レポートで講義内容を整理 (全講義内で数回実施予定) ・ キーワードを指示するのでそれに関連する新聞記事を読む

回数 (担当)	項目	内容
5	学習の主題	戦後日本家族の変化をホームドラマから観る!! 自営業の大家族から郊外の核家族へ(1)
	授業内容	・三丁目の夕日の世界 家父長制の直系家族 雷親父と優しいおふくろさん ・大家族、近所づきあい、ライフ・サイクル
	事前・事後学習	・講義内で実施するミニ・レポートで講義内容を整理 (全講義内で数回実施予定) ・キーワードを指示するのでそれに関連する新聞記事を読む
6	学習の主題	戦後日本家族の変化をホームドラマから観る!! 自営業の大家族から郊外の核家族へ(2)
	授業内容	・大都市郊外の友愛的な核家族へ ・郊外化、ライフ・コースへ
	事前・事後学習	・講義内で実施するミニ・レポートで講義内容を整理 (全講義内で数回実施予定) ・キーワードを指示するのでそれに関連する新聞記事を読む
7	学習の主題	現代家族の諸問題 ー
	授業内容	・結婚、子育てとキャリア ・日本のジェンダー問題
	事前・事後学習	・講義内で実施するミニ・レポートで講義内容を整理 (全講義内で数回実施予定) ・キーワードを指示するのでそれに関連する新聞記事を読む
8	学習の主題	「コミュニティ」って何?①
	授業内容	・地域社会の変化と人口移動、過疎と過密 ・郊外化、エスニック・タウン、限界集落
	事前・事後学習	・講義内で実施するミニ・レポートで講義内容を整理 (全講義内で数回実施予定) ・キーワードを指示するのでそれに関連する新聞記事を読む
9	学習の主題	地域起こし、コミュニティの再生の事例
	授業内容	・「地方再生」の時代
	事前・事後学習	・Iターン者と地元
10	学習の主題	格差社会の行方 ー 学歴社会?
	授業内容	・ワーキング・プアー ・下流老人、貧困高校生
	事前・事後学習	・講義内で実施するミニ・レポートで講義内容を整理 (全講義内で数回実施予定) ・キーワードを指示するのでそれに関連する新聞記事を読む
11	学習の主題	無縁社会の行方
	授業内容	・地縁・血縁社会の崩壊 ・孤独死をどう防ぐか?
	事前・事後学習	・講義内で実施するミニ・レポートで講義内容を整理 (全講義内で数回実施予定) ・キーワードを指示するのでそれに関連する新聞記事を読む
12	学習の主題	「モダニゼーション(近代化)」とは何? 家族・地域社会の変動の元
	授業内容	・世界の国々を多くの方法で分類する ・アジアの中の日本について理解する
	事前・事後学習	・講義内で実施するミニ・レポートで講義内容を整理 (全講義内で数回実施予定) ・キーワードを指示するのでそれに関連する新聞記事を読む
13	学習の主題	世俗化と反世俗化
	授業内容	・宗教の衰退とファンダメンタリスト(原理主義者)? ・スピリチャリズムって何?
	事前・事後学習	・講義内で実施するミニ・レポートで講義内容を整理 (全講義内で数回実施予定) ・キーワードを指示するのでそれに関連する新聞記事を読む

学習の主題・  
授業内容

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	14	学習の主題	「グローバルゼーション」って何？ 激変する現代の元
		授業内容	・どこにある「純国産」 ・世界の宗教と移民問題について
		事前・事後学習	これまでのノートのとまとめをする。予備試験を実施する。
	15	学習の主題	まとめ
		授業内容	・現代の社会変動とその対処方法 ・期末試験の概要
		事前・事後学習	これまでの授業の復習および疑問点の整理：

授業科目	生態学 Ecology	担当教員	立澤 史郎
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・前期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	ヒトを含む生物と環境との関わりを科学的に理解し、環境問題を科学的・総合的・多視的にとらえる基盤として、生態学（生態科学）の基礎を学ぶ。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「2つの自然」「3つの生態学」について理解し説明できる。</li> <li>・地球環境問題について生態学的観点（食物連鎖・生物濃縮など）から解説・議論することができる。</li> </ul>		
テキスト	ありません		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本生態学会編「生態学入門 [第2版]（東京化学同人）</li> <li>2. 鷲谷いづみ，矢原徹一著「保全生態学入門—遺伝子から景観まで」（文一総合出版）</li> <li>3. 大塚柳太郎ほか著「人類生態学 [第2版]」（東京大学出版会）</li> </ol>		
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準
	試験		目標の到達状況を毎回のコメントペーパー、レポート、および受講状況を合わせて総合的に評価します。 レポート 40% 提出物 40%：コメントペーパー その他 20%：受講状況
	レポート	40%	
	小テスト		
	提出物	40%	
その他	20%		
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校「生物」教科書（特に生態・環境の項）を読み返しておくことが望ましい。</li> <li>・講義の内容および順序は受講生の理解度や関心等により変更する場合があります。</li> </ul>		
実務経験を活かした教育内容			
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス・序論1（生物進化と「2つの自然」）
		授業内容	生態学が自然の家計学・経済学であることを学ぶ。また、ヒトを含む生物の進化が、生物と環境（「内なる自然」と「外なる自然」）の相互作用で生じてきたことを学ぶ。
		事前・事後学習	事前学習：過去に学んだ「進化」「適応」について復習しておくこと。事後には講義・討論の内容を復習すること。
	2	学習の主題	序論2（生物の集団現象を学ぶ三つの視点）
		授業内容	生物の集団現象を学ぶ際に、個体群、群集、生態系という3つの視点があることを理解する。また「保全」と「愛護」の違いを理解する。
		事前・事後学習	事前学習：個体群、群集、生態系の構成要素がどう違うのか、考えてみる。事後には講義・討論の内容を復習すること。
	3	学習の主題	個体群生態学1（理論）
		授業内容	個体数の変動の過程や要因の理論（研究例）を学ぶ。またそれが、鳥獣害問題の解決・軽減につながることを理解する。
		事前・事後学習	事前に身の回りやメディアで見聞きする生物個体群に関するニュースを調べる。事後には講義内容を復習し、具体的事例の調査を進めること。
	4	学習の主題	個体群生態学2（鳥獣害問題の事例）
		授業内容	個体群生態学の実例、特に鳥獣害の被害・管理問題の実例を学ぶ。
事前・事後学習		事前に身の回りやメディアで見聞きする鳥獣害問題等に関するニュースを調べる。事後には講義内容を復習し、具体的事例の調査を進めること。	

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	5	学習の主題	群集生態学 1 (理論)
		授業内容	群集 (種数) の変化やその要因の理論 (研究例) を学ぶ。またそれが、生物多様性保全や外来種問題と関係することを理解する。
		事前・事後学習	事前に身の回りやメディアで見聞きする生物群集に関するニュースを調べる。 事後には講義内容を復習し、具体的事例の調査を進めること。
	6	学習の主題	群集生態学 2 (生物多様性問題の事例)
		授業内容	群集生態学の応用事例、特に生物多様性問題・外来種問題の実例を学ぶ。
		事前・事後学習	事前に身の回りやメディアで見聞きする生物多様性や外来種問題に関するニュースを調べる。 事後には講義内容を復習し、具体的事例の調査を進めること。
	7	学習の主題	生態系生態学 1 (理論)
		授業内容	生態系における物質やエネルギーの循環の理論 (研究例) を学ぶ。またそれが、人類の生存環境の問題と深く関わることを理解する。
		事前・事後学習	事前に身の回りやメディアで見聞きする生物生態系に関するニュースを調べる。 事後には講義内容を復習し、具体的事例の調査を進めること。
	8	学習の主題	生態系生態学 2 (環境・公害問題の事例)
		授業内容	生態系生態学の応用事例、特に環境・郊外問題の実例を学ぶ。
		事前・事後学習	事前に身の回りやメディアで見聞きする環境・公害問題に関するニュースを調べる。 事後には講義内容を復習し、具体的事例の調査を進めること。

授業科目	スポーツ科学と運動 Sports Science and Exercise		担当教員	岡野 なお子
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・後期		選択・必修	選択
授業形態	演習		単位数	1単位
授業目的	本授業は、身体を動かすことを通し、スポーツの楽しさ、仲間とのコミュニケーション、自他の体調の変化の「気づき」などを知り、社会生活に必要な「協調性」やあらゆる場面に自ら対応していく「積極性」を身につけることを目的とします。			
到達目標	医療人として豊かな人間性、社会生活に必要なマナーや社会性を身につける。			
テキスト	特になし			
参考書	特になし			
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準	
	試験		目標の到達状況を実技参加への意欲・積極性と受講態度、安全性の評価(70%)と技能評価(30%)を総合して評価する。	
	レポート			
	小テスト			
	提出物			
その他	100%			
履修上の留意事項	全授業回数の 2/3 以上の出席回数が必要。安全にスポーツを行う為に運動着、運動しやすい靴を着用すること。土足厳禁。時間厳守。授業中の無断退室・飲食・勝手な行動を禁ずる。規則厳守。シラバスに記載されているスポーツ種目の順番、実施回数、種目等は履修者人数によって変更する場合ある。			
実務経験を活かした教育内容				
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	ガイダンス レクリエーション	
		授業内容	授業内容と目的、授業内容の構成、受講の諸注意の説明、評価方法について理解する。 軽い運動で身体をほぐす。	
		事前・事後学習	シラバスを読む。実技授業に参加できるだけの基礎体力づくりと健康管理を日頃から心がける。軽い運動が出来るような服装をすること。	
	2	学習の主題	ソフトバレーボール①	
		授業内容	基本ルールについて ボール操作とコントロール	
		事前・事後学習	ソフトバレーボールを文献やインターネットなどで予習	
	3	学習の主題	ソフトバレーボール②	
		授業内容	基本練習～攻撃編	
		事前・事後学習	ソフトバレーボールを文献やインターネットなどで予習	
	4	学習の主題	ソフトバレーボール③	
		授業内容	基本練習～守備編	
		事前・事後学習	ソフトバレーボールを文献やインターネットなどで予習	
	5	学習の主題	ソフトバレーボール④	
		授業内容	リーグ戦①	
		事前・事後学習	ソフトバレーボールを文献やインターネットなどで予習	
	6	学習の主題	ソフトバレーボール⑤	
		授業内容	リーグ戦②	
事前・事後学習		ソフトバレーボールを文献やインターネットなどで予習		

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	7	学習の主題	ソフトバレーボール⑥
		授業内容	リーグ戦③
		事前・事後学習	ソフトバレーボールを文献やインターネットなどで予習
	8	学習の主題	バドミントン①
		授業内容	各ストロークの基本練習① ハーフコートでシングルスゲーム練習
		事前・事後学習	バドミントンを文献やインターネットなどで予習
	9	学習の主題	バドミントン②
		授業内容	各ストロークの基本練習② ハーフコートでシングルスゲーム練習
		事前・事後学習	バドミントンを文献やインターネットなどで予習
	10	学習の主題	バドミントン③
		授業内容	ルールの説明 ダブルスゲーム
		事前・事後学習	バドミントンを文献やインターネットなどで予習
	11	学習の主題	バドミントン④
		授業内容	ダブルスゲーム
		事前・事後学習	バドミントンを文献やインターネットなどで予習
	12	学習の主題	生涯スポーツ（ポッチャ）
		授業内容	生涯スポーツについて説明、ポッチャのルール説明
		事前・事後学習	文献やインターネットなどで予習
13	学習の主題	バドミントン⑤／ポッチャ①	
	授業内容	ダブルスゲーム	
	事前・事後学習	バドミントンを文献やインターネットなどで予習	
14	学習の主題	バドミントン⑥／ポッチャ②	
	授業内容	ダブルスゲーム	
	事前・事後学習	バドミントンを文献やインターネットなどで予習	
15	学習の主題	まとめ	
	授業内容	ソフトバレーボール、バドミントンゲーム	
	事前・事後学習	半期で実施した各実技種目等の復習	

授業科目	法と人権 Law and Human Rights	担当教員	神元 隆賢
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	わが国の基礎法にしてすべての法律の根本を定義する根本規範である日本国憲法の内容は、総論、人権保障、統治機構に分けられる。この授業は、第1～11回では人権保障に関する問題を取りあげ、具体的事例を踏まえて学習することにより、社会生活を営むうえで必要な人権の基礎知識と法的思考を身につけることを目的とする。第12～14回では医療と人権に関する諸問題を学習することにより、医療人として必要な法知識を身につけることを目的とする。		
到達目標	1. 日本国憲法のうちの人権論に関する主要な判例および学説を理解したうえで、社会や世論で問題（話題）とされている事象について、現代憲法学の観点から議論をすることができる。 2. 医療人としての職務と人権、そして法との関わりを、具体的な事例を通じて理解したうえで、法的・倫理的課題を克服するための一つの視角を得る。		
テキスト	初宿正典他「いちばんやさしい憲法入門（第6版）」（有斐閣アルマ、2020年）		
参考書	1. 芦部信喜（高橋和之補訂）「憲法（第7版）」（岩波書店、2019年） 2. 戸松秀典「憲法」（弘文堂、2015年） 3. 小川富之他「ロードマップ法学」（一学舎、2016年）		
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	60%	目標の到達状況を下記の方法で評価する。 原則、この授業は対面で実施するが、コロナ禍の状況下にあることを踏まえ、対面授業の実施が困難である場合にはオンライン授業で実施する。授業途中でコロナ感染状況が変化し、対面授業とオンライン授業が切り替わった場合には、評価方法はオンライン授業のものを採用する。 【対面授業】授業への2/3以上への出席を必要条件とし、原則として、宿題型のレポート、授業15回目に実施する小テスト、学期末の定期試験によって成績を評価する。評価割合は左記参照。定期試験を受験しなかった場合は、評価の対象としない。追試験は定期試験に限り実施する。 【オンライン授業】授業15回目で宿題型レポートを課し、その点数のみ（100%）で評価する。
	レポート	20%	
	小テスト	20%	
	提出物		
その他			
履修上の留意事項	【対面授業】PowerPointと教科書を併用して行い、冒頭でPowerPointデータをエクスポートした印刷物も配布する。過去の印刷物の再配布は行わない。ただし、下記メールアドレスまで、学籍番号、氏名、第何回の印刷物が欲しいかを明記したうえでメールしてもらえれば、該当するPDFデータを添付して返信する。 kanmoto@hgu.jp 【オンライン授業】MP4動画と印刷用PDF文書ファイルをMicrosoft Teamsで配布して行う。		
実務経験を活かした教育内容			
学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス、法学入門（1）
		授業内容	・授業の概要、方法、成績評価方法の説明 ・法とは何か
		事前・事後学習	事前にシラバスを読んでおく。
	2	学習の主題	法学入門（2）
		授業内容	・憲法、民法、刑法の機能 ・判例と学説
		事前・事後学習	法とは何かを簡単に整理しておく。
	3	学習の主題	外国人の権利
		授業内容	・外国人に参政権（選挙権、被選挙権）を認める余地はあるか
		事前・事後学習	外国人参政権について調べて、自分の考えを整理しておく。
	4	学習の主題	プライバシー権
		授業内容	・プライバシー権保護の重要性 ・名誉毀損とは ・「宴のあと」事件
		事前・事後学習	テキストの該当部分を熟読しておく。
	5	学習の主題	表現の自由（1）プライバシー権との調和
		授業内容	・名誉毀損における真実性の証明による不処罰
事前・事後学習		前回の授業内容を復習しておく。	

回数 (担当)	項目	内容
6	学習の主題	表現の自由（２）ポルノの権利
	授業内容	・わいせつ文書等頒布罪　・許容される性表現の限界
	事前・事後学習	前回の授業内容を復習しておく。
7	学習の主題	法の下での平等
	授業内容	・平等権の意味　・尊属殺人罪違憲判決事件
	事前・事後学習	テキストの該当部分を熟読しておく。
8	学習の主題	信教の自由
	授業内容	・神戸高専剣道実技拒否事件　・オウム真理教解散命令事件
	事前・事後学習	テキストの該当部分を熟読しておく。
9	学習の主題	生存権
	授業内容	・「健康で文化的な最低限度の生活」とは
	事前・事後学習	テキストの該当部分を熟読しておく。
10	学習の主題	教育権
	授業内容	・家永教科書裁判　・旭川学テ事件
	事前・事後学習	テキストの該当部分を熟読しておく。
11	学習の主題	死刑制度
	授業内容	・死刑存置論　・死刑廃止論
	事前・事後学習	死刑の存廃について、自分の考えを整理しておく。
12	学習の主題	人の始期・終期
	授業内容	・胎児と人、人と死体を区別する法的基準 ・人はいつから「人」として法的に保護されるか
	事前・事後学習	とくになし。
13	学習の主題	自己決定権（１）被害者の同意
	授業内容	・自殺、自殺関与、同意殺人（死に同意した者の殺害）の違法性 ・同意傷害（負傷に同意した者の傷害）における傷害罪の成否 ・医療行為と傷害
	事前・事後学習	とくになし。
14	学習の主題	自己決定権（２）安楽死・尊厳死
	授業内容	死期が切迫した患者の苦痛を除去するための殺害、延命治療中止は許容されるか
	事前・事後学習	前回の授業内容を復習し、安楽死・尊厳死の是非について、自分の考えを整理しておく。
15	学習の主題	授業のまとめ
	授業内容	・これまでの総括　・定期試験に向けて　・定期試験直前小テスト
	事前・事後学習	授業全体を振り返って、疑問点をまとめておく。

学習の主題・  
授業内容

授業科目	地域社会文化論 Community Culture Theory	担当教員	澤井 玄
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	「節分にまくのは落花生」「赤飯には甘納豆が入っている」のは普通だろうか、変わっているのだろうか。いずれも北海道の習慣で、全国的なものではない。この授業では、本学の所在する北海道の気候や人柄・食文化・習慣などを客観化することを通じて、自分の「普通」が他者にとっても「普通」とは限らないことを理解する。そして「自分は正しい」だけでなく「他者も正しい」ことを認められる思考を身に付けたい。またアイヌ文化についても適宜触れていきたい。		
到達目標	北海道の地域特性を理解するとともに、地域・時代・環境により、正しいこと、当たり前のことは不変ではないことを理解する。		
テキスト	特になし、毎回資料を配布する。		
参考書	必要に応じて紹介する。可能であれば『なにこれ!?北海道学』池田貴夫著（北海道新聞社 2013年）を見ておくこと。また本講義にかかわる事項以外にも、日刊の総合新聞（webではなく紙の）にできるだけ毎日、目を通すこと。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合（%）	評価基準
	試験	50%	目標の到達状況を試験等の結果・提出物・その他授業への取り組み姿勢などにより総合的に評価する。 講義に取り上げる事項に関わるアンケートを複数回実施する。これも提出物として評価する。欠席回数が授業回数の1/3を超えた場合は試験の受験資格を失う。 <遠隔授業となった場合の評価方法については別途指示する>
	レポート		
	小テスト		
	提出物	40%	
その他	10%		
履修上の留意事項	授業中の私語・許可を得ない入退出等、授業の進行の妨げとなる行為は厳禁する。 上記に違反する者は学生証を提示させ、繰り返し注意を受ける者については以後の出席を認めない場合があるので十分注意のこと。		
実務経験を活かした教育内容	道内各地で調査の機会があり、地域ごとに方言・産物・食生活等に差異・特色があることから、履修生たちの地元の特長も聞き出しながら授業展開を行っていく。		
学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容
	1	学習の主題	イントロダクション
		授業内容	・私たちの「正しい」は世界中で正しいのだろうか。例：「命は唯一無二」なのか。 ・NHK スペシャル『ヤノマミ』ビデオ前半視聴。 ・『地球の食卓』（TOTO 出版）から世界の食生活を垣間見る。 ・初回アンケート（生活の中でのカルチャーショック）
		事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。
	2	学習の主題	地域・文化で異なる「当たり前」
		授業内容	・『世界の食卓』続き。 ・増加する在日外国人。習慣の違い。 ・NHK スペシャル『ヤノマミ』ビデオ後半視聴。 ・地域・文化に関するアンケート。
		事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。
	3	学習の主題	命は「唯一無二」のものか？
		授業内容	・前回アンケート結果報告。 ・ヤノマミ族の新生児を「天に返す」行為について。 ・世界各地・各時代の人口抑制（墮胎・間引き）。
		事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。
	4	学習の主題	親子・家族とは何か
		授業内容	・生物学的な親子と社会的な親子。 ・様々な親子のあり方。 ・どこまでが家族か。 ・「家族」に関するアンケート。
事前・事後学習		配付資料を復習しておくこと。	

回数 (担当)	項目	内容
5	学習の主題	日本の家族像
	授業内容	・江戸時代～現代の日本の家族像の変化。 ・「我が子」か「神の子」か。 ・誕生から死亡までの日本の儀礼・習慣。
	事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。
6	学習の主題	家族・家庭とは何か
	授業内容	・家族団欒（だんらん）の誕生と、家庭の食卓の変遷。明治からサザエさん ・ちびまる子ちゃん、そして現代。 ・家庭内教育の場としての食卓・団欒。
	事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。
7	学習の主題	現代の家族と食卓
	授業内容	・家族のあり方の変化。 ・『家族の勝手でしょ』（岩村暢子・新潮社）にみる孤食・個食・勝手食い・ バラバラ食いなど ・家庭内教育機会の減少。
	事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。
8	学習の主題	日本人の身体観
	授業内容	・文化としての身体。 ・日本人の身体観・体に関する諺。 ・現代医療に必要な、文化による身体観の相違への理解。
	事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。
9	学習の主題	伝統的生活文化（伝統医療）と現代医療
	授業内容	・現代医療と伝統医療の対立と共存。 ・民間治療・まじないのアンケート。
	事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。
10	学習の主題	方言と意思疎通
	授業内容	・方言のために医療従事者が病状把握を誤る現状。「はらあんべ（腹塩梅） ニヤニヤすってや」など ・臨床方言学の提唱。
	事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。
11	学習の主題	北海道の自然と歴史
	授業内容	・北海道の自然環境 ・北海道に歴史は無いのか、明治時代以前から考える。
	事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。
12	学習の主題	明治から現代の北海道
	授業内容	・本州からの移住 ・故地からの伝統継承と新しい生活
	事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。
13	学習の主題	北海道に住む人々の習慣・考え方
	授業内容	・北海道人の気質・習慣・食文化・消費動向など
	事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。
14	学習の主題	アイヌ民族の今 北海道の疾病と特徴
	授業内容	・アイヌ民族の現状 ・北海道に多い病気・少ない病気とその要因
	事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。
15	学習の主題	講義のまとめ
	授業内容	・これまでの講義のまとめ。
	事前・事後学習	配付資料を復習しておくこと。

学習の主題・  
授業内容

授業科目	形態機能学Ⅰ Basic Anatomy	担当教員	小林 清一
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	1. 医療従事者として必須となる人体の形態と構造を学ぶ。 2. 専門科目を学ぶための人体の形態的基礎知識を習得する。		
到達目標	1. 解剖学用語を説明できる。 2. 人体を構成する4種類の組織の特徴を説明できる。 3. 頭蓋骨の孔、突起などの名称と軟部組織との関係を説明できる。 4. 体幹・四肢での骨と関節を運動と関連づけて説明できる。 5. 消化器系・呼吸器系・泌尿器系の形態的特徴の概略を説明できる。 6. 中枢神経と末梢神経の形態学的特徴を機能と関連づけて説明できる。 7. 心臓の形態と動脈・静脈・リンパ系の分布の概略を説明できる。 8. 感覚器を列記でき、その概略を説明できる。		
テキスト	1. 坂井建雄、岡田薩夫「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学」(医学書院) 2. 増田敦子「ステップアップ解剖生理学ノート」(サイオ出版)		
参考書	坂井建雄「カラーイラストで学ぶ 集中講義 解剖学」(メジカルビュー社)		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	60%	定期試験：到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。 提出物：「ステップアップ解剖生理学ノート」の別冊である「カラーリングブック解剖学ノート」を色塗りして提出を課し、カラーリングの丁寧性や色彩及び名称記載の正確性を評価する。 その他：授業での積極的発言や取り組み姿勢等を評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	20%	
その他	20%		
履修上の留意事項	配付するパワーポイントレジュメを中心に講義を行うが、関連部分をテキストで必ず予習すると共に、「ステップアップ解剖生理学ノート」の穴埋め問題と毎回のレジュメに添付された復習問題を解答しながら復習し、解剖学知識の習得に努めること。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例などを講義に織り交ぜながら、臨床上必要な形態学的知識について理解しやすいように授業を行います。		
学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容
	1	学習の主題	科目ガイダンス / 解剖学総論
		授業内容	講義日程、自学自習方法の説明とともに以下の項目についての講義を行う。 ・ヒトの体の最小単位と系統 ・人体の基準平面 ・体を構成する4種類の組織
		事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
	2	学習の主題	骨格系(1)
		授業内容	以下の項目について講義を行う。 ・人体の骨格系 ・骨の構造 ・関節 ・骨の形状 ・上肢の骨
		事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
	3	学習の主題	骨格系(2)
		授業内容	以下の項目について講義を行う。 ・頭部の骨格 ・胸郭 ・骨盤の構造 ・下肢の骨
		事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
	4	学習の主題	筋系(1)
		授業内容	以下の項目について講義を行う。 ・筋の形と構造 ・筋の働き ・顔面と頸部の筋 ・胸背部の筋 ・呼吸筋
		事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
	5	学習の主題	筋系(2)
		授業内容	以下の項目について講義を行う。 ・腹部の筋・上肢帯 / 上肢 / 手の筋 ・下肢帯 / 下肢 / 足の筋
事前・事後学習		該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。	

回数 (担当)	項目	内容
6	学習の主題	脈管系（１）
	授業内容	以下の項目について講義を行う。 ・脈管系 ・血管の構造 ・心臓の構造 ・動脈系
	事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
7	学習の主題	脈管系（２）
	授業内容	以下の項目について講義を行う。 ・静脈系 ・胎生期の循環系 ・リンパ系 ・血液
	事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
8	学習の主題	消化器系（１）
	授業内容	以下の項目について講義を行う。 ・消化管の構造 ・口腔 ・食道 ・胃と十二指腸
	事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
9	学習の主題	消化器系（２）
	授業内容	以下の項目について講義を行う。 ・空腸と回腸 ・大腸 ・肝臓 ・胆嚢 ・膵臓
	事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
10	学習の主題	呼吸器系
	授業内容	以下の項目について講義を行う。 ・呼吸器系の概略 ・鼻腔 ・喉頭 ・気管と気管支 ・肺 ・縦隔
	事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
11	学習の主題	泌尿器系・生殖器系・内分泌系
	授業内容	以下の項目について講義を行う。 ・腎臓と他の泌尿器 ・男性及び女性生殖器 ・下垂体と他の内分泌器
	事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
12	学習の主題	神経系（１）
	授業内容	以下の項目について講義を行う。 ・神経系の構成 ・神経細胞 ・中枢神経系 ・脊椎と脊髄 ・末梢神経系
	事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
13	学習の主題	神経系（２）
	授業内容	以下の項目について講義を行う。 ・大脳辺縁系 ・錐体路と錐体外路 ・自律神経 ・脳脊髄膜と脳室系
	事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
14	学習の主題	感覚器系
	授業内容	以下の項目について講義を行う。 ・皮膚感覚と複合感覚 ・内臓覚 ・視覚器 ・聴覚器 ・平行感覚器
	事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
15	学習の主題	まとめ/定期試験ガイダンス
	授業内容	「カラーリングブック解剖学ノート」の回収。復習問題模範解答&解説集配付。定期試験ガイダンス。定期試験過去問集配付。質疑応答。
	事前・事後学習	自学自習にて不明な点をまとめておくこと。

学習の主題・  
授業内容

授業科目	形態機能学Ⅱ Anatomy and Physiology	担当教員	千葉 仁志
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	看護の対象となるヒトの「生活」を理解するために、生活の基本となる人体の生理機能とその調節について学び、形態機能学Ⅰ(解剖学)などの知識を加え、ヒトの「生きる仕組み」に関する基本を理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 体液の区分とその特徴を説明できる。</li> <li>2. 神経系による情報の受容と処理について説明できる。</li> <li>3. 自律神経系による内臓機能の調節について説明できる。</li> <li>4. 身体の支持と運動について説明できる。</li> <li>5. 呼吸と血液のはたらきについて説明できる。</li> <li>6. 血液の循環とその調節について説明できる。</li> <li>7. 栄養の消化と吸収について説明できる。</li> <li>8. 尿の生成機構と調節について説明できる。</li> <li>9. 体温とその調節について説明できる。</li> <li>10. 内分泌による内臓機能の調節について説明できる。</li> <li>11. 生殖のしくみについて説明できる。</li> </ol>		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 坂井建雄、岡田薩夫「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能① 解剖生理学」(医学書院)</li> <li>2. 増田敦子「ステップアップ解剖生理学ノート」(サイオ出版)</li> </ol>		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 岡田隆夫・編「カラーイラストで学ぶ 集中講義 生理学」(メジカルビュー社)</li> <li>2. ナーシングサプリ編集委員会編「イメージできる解剖生理学」(メディカ出版)</li> </ol>		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	100%	定期試験：到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。 100点満点で60点以上を合格とする。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の留意事項	配付するパワーポイントレジュメを中心に講義を行う。関連部分をテキストで必ず予習すると共に、レジュメに添付された復習問題を自ら解答し、サブテキストの「ステップアップ解剖生理学ノート」の関連部分を毎回必ず事後学習すること。最終講義日に復習問題模範解答&解説、定期試験過去問集(解答付)を配付する。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例などを講義に織り交ぜながら、臨床上必要な生理学的知識について理解しやすいように授業を行います。		
学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容
	1	学習の主題	科目ガイダンス / ヒトにおける種々の生理機能とそれらの関連
		授業内容	・講義スケジュール、自学自習方法の説明 ・種々の生理機能とそれらの関連 ・体液の区分とその特徴
		事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
	2	学習の主題	酸塩基平衡、神経系における情報伝達機構
		授業内容	・酸塩基平衡 ・神経系の構成と分類、末梢神経系の機能学的分類 ・ニューロンでの興奮とその伝導 ・シナプスでの興奮の伝達
		事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
	3	学習の主題	中枢神経系の機能(1)
		授業内容	・脊髄、脳幹、小脳、間脳および大脳の機能 ・脳神経の機能
		事前・事後学習	該当部分をテキストにて予習し、配付レジュメ・サブテキストにて復習する。
	4	学習の主題	中枢神経系の機能(2)、自律神経系の機能
		授業内容	・脳脊髄膜の機能と髄液 ・脳波と睡眠 ・自律神経の特徴 ・交感神経および副交感神経の機能
		事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
	5	学習の主題	一般感覚、特殊感覚(1)
		授業内容	・一般感覚の適刺激、受容器、伝導路、中枢 ・視覚受容器、視覚伝導路 ・遠近調節 ・自律神経反射
事前・事後学習		該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。	

回数 (担当)	項目	内容
6	学習の主題	特殊感覚（2）
	授業内容	・対光反射の反射弓経路、外眼筋と内眼筋の機能、眼底検査 ・聴覚と平衡覚の適刺激、受容器、伝導路、中枢、聴覚検査 ・味覚と嗅覚の適刺激、受容器、伝導路、中枢
	事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
7	学習の主題	身体の支持と運動、血液の成分と機能
	授業内容	・筋収縮のしくみ、遅筋と速筋の特徴 ・血漿の成分と機能 ・赤血球の産生と機能 ・白血球の種類と機能 ・血液凝固 ・血液型
	事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
8	学習の主題	循環器系の機能とその調節
	授業内容	・心臓の構造と機能、心電図 ・血圧とその調節 ・毛細血管における体液移動 ・リンパ系の役割 ・静脈還流量の調節
	事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
9	学習の主題	呼吸器系の機能と調節
	授業内容	・吸息と呼息 ・呼吸ガス交換とガス運搬 ・呼吸運動の調節 ・呼吸機能検査
	事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
10	学習の主題	消化器系の機能と調節 1
	授業内容	・咀嚼と唾液分泌の役割と調節 ・胃運動と胃液分泌の役割と調節 ・膵液・胆汁の役割と分泌排出調節 ・小腸における栄養素の消化と吸収 ・消化管運動の役割と調節 ・肝臓の機能
	事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
11	学習の主題	尿生成の機構と調節
	授業内容	・糸球体ろ過と尿の生成 ・尿管機能 ・尿検査と腎機能検査 ・レニン-アンギオテンシン-アルドステロン系
	事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
12	学習の主題	体温とその調節、
	授業内容	・体温、熱の産生と放散 ・基礎体温 ・発汗と体温調節
	事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
13	学習の主題	内分泌系の機能（1）
	授業内容	・視床下部・下垂体前葉・下位内分泌系 ・成長ホルモンの分泌調節と生理作用 ・甲状腺ホルモンの分泌調節と生理作用 ・ホルモンによる血漿 Ca イオン濃度調節
	事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
14	学習の主題	内分泌系の機能（2）
	授業内容	・副腎皮質ホルモンの分泌調節と生理作用 ・副腎髄質ホルモンの生理作用 ・糖代謝に関わるホルモンの種類と生理作用 ・性ホルモンの生理作用
	事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。
15	学習の主題	生殖のしくみ / 定期試験ガイダンス
	授業内容	・性分化のしくみ ・精子形成の調節 ・卵巣ホルモン分泌と子宮の周期的変化 ・排卵、受精、着床、胎盤の機能 ・定期試験ガイダンス、復習問題模範解答解説集、定期試験過去問集（解答付き）を配付する。
	事前・事後学習	該当部分をテキストで予習し、配付レジュメ・解剖生理学ノートにて復習する。

学習の主題・  
授業内容

授業科目	感染免疫学 Infectious Diseases and Immunology	担当教員	小林 清一
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	種々の病原微生物に関する生物学的知識と生体側の感染防御機構である免疫のしくみの基本を学び、個々の病原体による感染の成立から発病に至る病態生理に関する理解を深める。さらに新興感染症や再興感染症、院内感染や日和見感染等の概念を理解し、感染に対する予防対策の基本概念であるスタンダード・プリコーションについて学習する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感染症の原因となる病原微生物（細菌、ウイルス、真菌、寄生虫）の主要なものについて各々が起こす疾病と病原性の特徴および感染経路を概説できる。</li> <li>2. 感染症の治療（抗菌薬、抗ウイルス薬）、と予防（ワクチン）について概説できる。</li> <li>3. 日和見感染について、院内感染や多剤耐性菌との関連性を考えながら説明できる。</li> <li>4. 院内感染防止の観点からスタンダード・プリコーションについて説明できる。</li> <li>5. 消毒法・滅菌法の原理を理解し、適切な方法を選択できる。</li> <li>6. 感染症に対するヒトの免疫機構と免疫検査について概説できる。</li> </ol>		
テキスト	藤本秀士 編著「わかる！身につく！病原体・感染・免疫 改訂3版」（南山堂）		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 南嶋洋一 他「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進④ 微生物学」（医学書院）</li> <li>2. 増澤俊幸 「感染制御の基本がわかる 微生物学・免疫学」（羊土社）</li> </ol>		
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準
	試験	80%	定期試験：到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。 その他：授業での積極的発言や取り組み姿勢を評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
その他	20%		
履修上の留意事項	感染症に関わるニュース、新聞などのメディア情報に日頃から注意を向け、何が問題となっているかを常に意識して本講義に臨むこと。配付するパワーポイントレジュメを中心に講義を行うが、テキストで当該部分を必ず確認すること。また、レジュメに添付された復習問題を自ら解答し、習得知識の確認に活用すること。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例などを講義に織り交ぜながら、臨床上必要な感染免疫学的知識について理解しやすいように授業を行います。		
学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容
	1	学習の主題	科目ガイダンス / 感染症とは何か
		授業内容	・ 講義スケジュール ・ 感染症の歴史 ・ コッホの原則 ・ 感染と感染症の違い
		事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
	2	学習の主題	感染症の現状と感染症法
		授業内容	・ 医療分野や一般社会で問題となっている感染症（新興感染症、再興感染症） ・ 感染症法の成立経過と内容（1類～5類感染症、指定感染症） ・ 感染症情報の収集と分析
		事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
	3	学習の主題	感染様式の種類、病原体の種類と生物学的特徴
		授業内容	・ 感染様式の種類と特徴 ・ 人獣共通感染症 ・ 感染症の成立要因 ・ 細菌、真菌、ウイルスの生物学的な特徴
		事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
	4	学習の主題	感染経路
		授業内容	・ 水平感染と垂直感染とその対策 ・ 接触感染、飛沫感染と空気感染 ・ その他、糞口感染、性行為感染、医原性感染、節足動物媒介感染など
		事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。

回数 (担当)	項目	内容
5	学習の主題	感染免疫のしくみ(1)
	授業内容	・自然免疫と獲得免疫の違い ・獲得免疫における液性免疫と細胞性免疫の特徴 ・抗原の種類と抗原性を発揮するための条件
	事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
6	学習の主題	感染免疫のしくみ(2)
	授業内容	・液性免疫の担い手である抗体の種類と役割 ・感染症の診断における免疫検査の基本
	事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
7	学習の主題	感染症の予防(1)
	授業内容	・ワクチンの意義と種類、定期接種と任意接種 ・院内感染対策の重要性と方法(スタンダード・プリコーションと感染経路別対策)
	事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
8	学習の主題	感染症の予防(2)
	授業内容	・滅菌と消毒 ・滅菌法と消毒法の実例とそれらの適切な選択法。
	事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
9	学習の主題	細菌感染症の治療と細菌感染症(1)
	授業内容	・抗菌薬の作用機序別分類と副作用、抗菌薬に対する細菌の耐性機構 ・ブドウ球菌、レンサ球菌、腸球菌、ナイセリア属の菌について細菌学的な特徴とそれらが起こす代表的な疾患
	事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
10	学習の主題	細菌感染症(2)
	授業内容	腸内細菌科、ビブリオ属、グラム陰性好気性菌(緑膿菌、ジオネラ菌、百日咳菌)、リステリア菌、ジフテリア菌などについて細菌学的な特徴とそれらが起こす代表的な疾患
	事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
11	学習の主題	細菌感染症(3)
	授業内容	抗酸菌(結核菌)、らせん菌、嫌気性菌、スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて細菌学的な特徴とそれらが起こす代表的な疾患
	事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
12	学習の主題	ウイルス感染症(1)
	授業内容	ウイルス学総論 DNA ウイルス:ヘルペスウイルス科、アデノウイルス、パピローマ、痘瘡
	事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
13	学習の主題	ウイルス感染症(2)
	授業内容	RNA ウイルス:オルトミクソウイルス、パラミクソウイルス、リッサウイルス、ピコルナウイルス、レオウイルス、トガウイルス、フラビウイルス、フィロウイルス、ブニヤウイルス、コロナウイルス、カリシウイルス、レトロウイルス
	事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
14	学習の主題	ウイルス感染症(3)、真菌感染症、寄生虫感染症
	授業内容	肝炎ウイルス、真菌(カンジダ、アスペルギルス、クリプトコッカス、ニューモシスチス) 寄生虫:内部寄生虫(原虫類、蠕虫類)、外部寄生虫
	事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
15	学習の主題	まとめ / 定期試験ガイダンス
	授業内容	感染症トピックス / 定期試験ガイダンス、復習問題模範解答解説集、定期試験過去問集(解答付き)を配付する。
	事前・事後学習	復習問題の実施状況を確認し、模範解答により自己採点する。解説を熟読し理解する。

学習の主題・  
授業内容

授業科目	病態学 Pathology	担当教員	小林 清一
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	看護を含む最適な医療を提供するためには、対象となる各種疾患の特徴を正しく理解する必要がある。本科目では様々な病変がなぜ、どのように発生・経過し、治療によってどのように変化するのか？といったことを形態的、機能的な視点などから学習し、理論に基づいた看護を実践するための基礎知識の理解と習得（堅固な土台作り）を目的とする。		
到達目標	1. 病理総論（各種臓器に生じる多彩な病変の共通事項）の概要を理解する。 1) 疾患を大別できる。 2) 病名から疾患の概要を推察できる。 2. 代表的な病態の発生機序、経時的变化を説明できる。 3. 正常組織との対比や、各種疾患の関連性を説明できる。		
テキスト	大橋健一他「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進① 病理学」(医学書院)		
参考書	1. 田中越郎「系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進② 病態生理学」(医学書院) 2. 小林正伸「なるほどなっとく病理学 病態形成の基本的な仕組み（改訂2版）」(南山堂)		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	80%	定期試験：到達目標に関する定期試験を実施し、学習到達度を評価する。 その他：授業での積極的発言や取り組み姿勢を評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
その他	20%		
履修上の留意事項	病変の特徴、発生のしくみなどを学ぶためには、正常組織の構造や機能の理解が前提となるので、形態機能学Ⅰ及びⅡでの学習内容を再確認したうえで受講すること。配付するパワーポイントレジュメを中心に講義を行うが、テキストにて当該部分を必ず予習すること。また、レジュメに添付された復習問題を自ら解答すること。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例などを講義に織り交ぜながら、臨床上必要な病態病理学的知識について理解しやすいように授業を行います。		
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1	学習の主題	科目ガイダンス / 病態学概論～病態学とは何か。
		授業内容	・ 講義スケジュール ・ 病態学と病理学の異同 ・ 医療における病理診断の役割と、各種病理検査の概要を学ぶ。 ・ 病気の種類と発症要因について理解する。
		事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
	2	学習の主題	退行性病変（1）
		授業内容	変性と代謝障害の関連性を理解する。 ・ 変性や代謝障害の原因と経過に伴う形態や機能への影響 ・ 糖質、脂質、タンパク質の代謝障害と色素変性
		事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
	3	学習の主題	退行性病変（2）
		授業内容	萎縮の機序、細胞組織の死を理解する。 ・ 萎縮の種類、萎縮と低形成の違い ・ 萎縮と肥大の対比 ・ 壊死とは ・ アポトーシスとは
		事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
	4	学習の主題	進行性病変（1）
		授業内容	分化と増殖の関係、肥大と過形成の違いについて理解する。 ・ 分化と増殖の対比 ・ 肥大の分類 ・ 過形成の具体例
		事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
	5	学習の主題	進行性病変（2）
		授業内容	再生組織と肉芽組織の役割、創傷治癒、化生について理解する。 ・ 再生 ・ 肉芽組織 ・ 創傷治癒 ・ 異物処理 ・ 化生の種類
事前・事後学習		事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。	

回数 (担当)	項目	内容
6	学習の主題	循環障害（１）
	授業内容	循環障害のとらえ方を理解し、全身の循環障害と、局所の循環障害の概要と代表的な局所の循環障害の発生機序を学ぶ。 ・高血圧と低血圧 ・ショック ・充血とうっ血 ・虚血
	事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
7	学習の主題	循環障害（２）
	授業内容	前回に引き続き代表的な局所の循環障害の発生機序を学習し、それぞれの循環障害の関連性をまとめる。 ・側副循環 ・出血 ・血栓症と塞栓症 ・水腫
	事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
8	学習の主題	炎症（１）
	授業内容	防御反応や疾患としての炎症の本態およびその原因や分類の仕方を理解する。急性炎症の発症メカニズムと炎症マーカーについて学ぶ ・炎症の定義 ・炎症の四（五）大徴候 ・急性炎症 ・炎症マーカー
	事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
9	学習の主題	炎症（２）
	授業内容	慢性炎症の特徴と、急性炎症の違いおよび特異性炎について理解する。 ・慢性炎症発症の機序 ・慢性炎症における肉芽組織の役割 ・急性炎症と慢性炎症の対比 ・特異性炎の定義と代表的な疾患
	事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
10	学習の主題	免疫（１）
	授業内容	免疫の歴史や免疫学発展の基礎を学ぶ。 ・免疫の歴史 ・免疫学発展の画期的事項とは～その１とその２ ・フローサイトメトリーの発展 ・モノクローナル抗体とCD分類
	事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
11	学習の主題	免疫（２）
	授業内容	免疫系の理解と免疫が関与する免疫疾患の種類と概要を学ぶ。 ・免疫系を構成する免疫細胞の機能 ・免疫疾患の種類 ・免疫不全 ・アレルギー ・自己免疫疾患と膠原病 ・移植免疫
	事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
12	学習の主題	腫瘍（１）
	授業内容	腫瘍の定義、原因、分類の仕方、腫瘍の拡がり方について学習する。 ・腫瘍の分類 ・良性腫瘍と悪性腫瘍 ・癌腫と肉腫 ・転移
	事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
13	学習の主題	腫瘍（２）
	授業内容	癌の進行度、癌原遺伝子と癌遺伝子の違い、化学発癌、腫瘍マーカーについて学習する。 ・癌の進行度 ・癌原遺伝子 / 癌遺伝子 ・発癌物質 ・腫瘍マーカー
	事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
14	学習の主題	先天異常
	授業内容	先天異常について学習する。 ・遺伝疾患の分類と遺伝様式を学ぶ。 ・代表的な先天異常について要因や発生機序などについて理解する。 ・代表的な染色体異常を学び、出生前診断について理解する。
	事前・事後学習	事前にテキストで該当部分を予習し、配付レジュメにて復習する。
15	学習の主題	病態学トピックス/定期試験ガイダンス
	授業内容	病態学に関連するトピックスや話題。看護師国家試験における病態学関連問題の分析と定期試験ガイダンスを行う。復習問題模範解答&解説集、定期試験過去問集（解答付）を配付する。
	事前・事後学習	復習問題の実施状況を確認し、模範解答により自己採点する。解説を熟読し理解する。

学習の主題・  
授業内容

授業科目	生涯発達論 Lifelong Development		担当教員	小島 康次
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・後期		選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1単位	
授業目的	人間の一生は、その個人だけにとどまらず、育児等を通じて、次の世代に受け継がれていくものです。生涯にわたる成長・発達、子の世代に対する教育を通じた文化の継承をも含むものなのです。発達とは、自らが子として成長することだけを指すのではなく、親として子を育てることもまた、成長であり発達なのだと考えられます。このような世代間の関係は、それぞれ人の生涯における成長・発達の過程であり課題であると考えられます。この授業では、人間の発達を生涯発達ととらえる立場に立って、ライフ・サイクル、世代間発達をテーマに講義を進めていきます。			
到達目標	人間の成長、とくに、精神的成長を青年期にとどまらず、老年期までの生涯にわたって続くものとして理解すること、また、それは個々人のうちで完結するものではなく対人関係の中で実現されるものであることを理解すること。			
テキスト	使用しない。適宜、プリント資料を配布する。			
参考書	澤田瑞也編「人間関係の発達心理学1：人間関係の生涯発達」（培風館）			
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準	
	試験		到達目標に関するレポートにより評価する（詳細はガイダンスにて説明する）	
	レポート	100%		
	小テスト			
	提出物			
その他				
履修上の留意事項	事後学習として、ノートを整理し前の講義との繋がりを確認しておくこと。			
実務経験を活かした教育内容				
学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容	
	1	学習の主題	エリクソンの生涯発達論	
		授業内容	発達課題と心理社会的危機；エリクソンの生涯と理論成立の背景	
		事前・事後学習	事後、配布プリントを読み、ノートを整理する	
	2	学習の主題	乳児期の課題と心理－社会的危機	
		授業内容	基本的信頼 vs. 不信；母子関係の成立と愛着	
		事前・事後学習	事後、配布プリントを読み、ノートを整理する	
	3	学習の主題	幼児期の課題と心理－社会的危機	
		授業内容	自律性 vs. 恥・疑惑、自主性 vs. 罪悪感；母子分離と対人関係の拡張	
		事前・事後学習	事後、配布プリントを読み、ノートを整理する	
	4	学習の主題	児童期の課題と心理－社会的危機	
		授業内容	勤勉性 vs. 劣等感；同年齢集団における競争と協同	
		事前・事後学習	事後、配布プリントを読み、ノートを整理する	
	5	学習の主題	青年期の課題と心理－社会的危機	
		授業内容	自我同一性の獲得 vs. 拡散；生の受容と責任の自覚、モラトリアム	
		事前・事後学習	事後、配布プリントを読み、ノートを整理する	
	6	学習の主題	成人期前期の課題と心理－社会的危機	
		授業内容	親密性 vs. 孤立；他者を受容すること、同一性の再確認	
		事前・事後学習	事後、配布プリントを読み、ノートを整理する 最終回に提出する課題を提示する（テーマ「受講して自分について考えたこと」）	
	7	学習の主題	成人期中期の課題と心理－社会的危機	
		授業内容	世代性 vs. 停滞；子の世代への慈しみと親の世代の世話	
事前・事後学習		事後、配布プリントを読み、ノートを整理する		

学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	8	学習の主題	老年期の課題と心理－社会的危機
		授業内容	統合性 vs. 絶望；人生をあるがまま受け入れる、死の受容
		事前・事後学習	事後、配布プリントを読み、ノートを整理する

授業科目	環境保健論 Environmental Medicine		担当教員	濱岡 直裕、森田 直樹
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・後期		選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1単位	
授業目的	身のまわりの物理学的環境、化学的環境、生物学的環境、社会的環境は、われわれの健康に影響に及ぼしている。健康とは何か、健康問題とは何かについて、自然・社会・文化的環境及び生活習慣から理解し、疾病の予防を通じて、公衆衛生の必要性を理解する。			
到達目標	1. 環境と人とのかかわり、環境の評価方法について理解する。 2. 物理的環境要因と健康影響を理解し、その予防策について理解する。 3. 化学的環境要因と健康影響を理解し、その予防策について理解する。 4. 生物的環境要因と健康影響を理解し、その予防策について理解する。			
テキスト	「シンプル衛生公衆衛生学 2021」(南江堂)			
参考書	適宜紹介する			
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準	
	試験	70%	定期試験、小テスト、授業中の取り組み姿勢(集中度、積極性、授業への参加状況、態度)などにより、目標の到達状況を総合的に評価する。	
	レポート			
	小テスト	20%		
	提出物			
その他	10%			
履修上の留意事項	・講義に関連した国家試験の過去問題などを小テストとして各講義の最後に実施する。 ・日頃から身のまわりにある健康に影響する出来事(ニュースなど)に注目することが望ましい。			
実務経験を 活かした教育内容				
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1 (濱岡)	学習の主題	健康と公衆衛生について	
		授業内容	環境保健とは何か。公衆衛生とは何か。健康とは何か。地球環境による健康影響とは何か。どのような健康被害となるか。	
		事前・事後学習	テキストの第1章、第6章の該当箇所を予習し、配付資料で復習する。	
	2 (濱岡)	学習の主題	物理的環境要因について	
		授業内容	物理的環境要因とは何か。どのような健康被害となるか。量反応関係とは何か。どのように予防するか。	
		事前・事後学習	テキストの該当箇所を予習し、配付資料で復習する。	
	3 (濱岡)	学習の主題	化学的環境要因について	
		授業内容	化学的環境要因とは何か。どのような健康被害となるか。量反応関係とは何か。どのように予防するか。	
		事前・事後学習	テキストの該当箇所を予習し、配付資料で復習する。	
	4 (濱岡)	学習の主題	生物学的環境要因について(1)	
		授業内容	感染症とは何か。どのような健康被害となるか。どのように予防するか。	
		事前・事後学習	テキストの該当箇所を予習し、配付資料で復習する。	
	5 (濱岡)	学習の主題	生物学的環境要因について(2)	
		授業内容	食による影響は何か。どのような健康被害となり、どのように予防するか。	
		事前・事後学習	テキストの該当箇所を予習し、配付資料で復習する。	
	6 (森田)	学習の主題	生活環境と健康影響トピック(1)	
		授業内容	食による健康の維持増進について	
		事前・事後学習	テキストの該当箇所を予習し、配付資料で復習する。	
	7 (森田)	学習の主題	生活環境と健康影響トピック(2)	
		授業内容	食による健康の維持増進について	
		事前・事後学習	テキストの該当箇所を予習し、配付資料で復習する。	
	8 (濱岡)	学習の主題	食品と健康について	
		授業内容	近年注目される食品と健康問題にはどのようなことがあるか。	
事前・事後学習		テキストの該当箇所を予習し、配付資料で復習する。		

授業科目	看護学概論 Introduction to Nursing	担当教員	小島 悦子
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	2単位
授業目的	本科目では、看護を学ぶ出発点として必要な基礎的知識、看護者としての態度を習得する。看護の歴史の変遷をもとに、看護学の主要概念である「人間」「健康」「環境」「看護」についてさまざまな視点から学び、看護学の発展に向けた今後の課題を考える。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の歴史の変遷を概観しながら、近代看護以降の主要な歴史について説明できる。</li> <li>2. 看護について説明できる。</li> <li>3. 看護の対象となる人間について説明できる。</li> <li>4. 人間と環境の関係について説明できる。</li> <li>5. 看護における健康の捉え方について説明できる。</li> <li>6. 看護職を規定する法律や関連法規について説明できる。</li> <li>7. 看護実践のプロセスについて説明できる。</li> <li>8. 保健医療福祉システムにおける看護の役割について説明できる。</li> </ol>		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高橋照子「看護学原論」(南江堂)</li> <li>2. V. ヘンダーソン、湯楨ます他訳「看護の基本となるもの」(日本看護協会出版会)</li> <li>3. F. ナイチンゲール、湯楨ます他訳「看護覚え書」(現代社)</li> </ol>		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護史研究会編「看護学生のための世界看護史」(医学書院)</li> <li>2. 舟島なをみ「看護のための人間発達学 第3版」(医学書院)</li> <li>3. 鷹野和美編「チーム医療論」(医歯薬出版)</li> <li>4. 小山真理子：看護学基礎テキスト 第4巻「看護の機能と方法」(日本看護協会出版会)</li> <li>5. 手島恵 監修「看護者の基本的責務」(日本看護協会出版会)</li> </ol>		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	60%	講義中・後に所定の用紙に授業内容に関連した意見、考え、感想をまとめた提出物(40%)と試験(60%)で評価する。 到達目標をどの程度理解したかを基準として評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物	40%	
その他			
履修上の留意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 質問や意見を述べるなど授業に積極的に参加し、提出物は期限を守って提出しましょう。</li> <li>2. 学習の主題について事前にテキストを読み、授業資料等は経時的にファイリングしましょう。</li> </ol>		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例を織り交ぜながら看護について理解できるように授業を行います。		
学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス 看護とは(1)
		授業内容	1. 自分と看護職との接点について考え、クラスメイトと共有する 2. 看護、ケアの語源から看護の意味について考える
		事前・事後学習	事前学習：シラバスを読み、履修上の疑問点を明らかにしておく
	2	学習の主題	看護とは(2)
		授業内容	看護の歴史をもとに看護について考える 【課題】看護理論家の看護の定義を調べる
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習の主題に関して自分なりに調べ、まとめる
	3	学習の主題	看護とは(3)
		授業内容	さまざまな看護の定義をもとに看護について考える 【課題】ナイチンゲール看護覚え書の「序章」p13-20と「補章」p227-250を読み、自分の考えを1200字程度にまとめる
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習の主題に関して自分なりに調べ、まとめる
	4	学習の主題	看護とは(4)
		授業内容	ナイチンゲール看護覚え書をもとに看護について考える
		事前・事後学習	事前・事後学習：学習の主題に関して自分なりに調べ、まとめる

回数 (担当)	項目	内容
5	学習の主題	看護の対象となる人間 (1)
	授業内容	1. 人間の身体・心理社会的・スピリチュアルな側面 2. 人間の成長・発達
	事前・事後学習	事前・事後学習：学習の主題に関して自分なりに調べ、まとめる
6	学習の主題	看護の対象となる人間 (2)
	授業内容	1. 人間の基本的欲求 2. 環境への適応 3. 統合体としての人間 【課題】ヘンダーソン「看護の基本となるもの」p8-33を読み、自分の考えを1200字程度にまとめる
	事前・事後学習	事前・事後学習：学習の主題に関して自分なりに調べ、まとめる
7	学習の主題	人間と環境の関係
	授業内容	1. 環境とは 2. 生活と環境
	事前・事後学習	事前・事後学習：学習の主題に関して自分なりに調べ、まとめる
8	学習の主題	看護における健康
	授業内容	1. 健康とは：WHOの健康の定義、アルマ・アタ宣言、オタワ憲章 2. ライフスタイルと健康
	事前・事後学習	事前・事後学習：学習の主題に関して自分なりに調べ、まとめる
9	学習の主題	看護と法
	授業内容	1. 保健師助産師看護師法 2. 医療法
	事前・事後学習	事前・事後学習：学習の主題に関して自分なりに調べ、まとめる
10	学習の主題	看護実践のプロセス (1)
	授業内容	看護実践における技術
	事前・事後学習	事前・事後学習：学習の主題に関して自分なりに調べ、まとめる
11	学習の主題	看護実践のプロセス (2)
	授業内容	看護実践と倫理：ニュルンベルグ綱領、リスボン宣言、ヘルシンキ宣言、看護者の倫理綱領
	事前・事後学習	事前・事後学習：学習の主題に関して自分なりに調べ、まとめる
12	学習の主題	看護実践のプロセス (3)
	授業内容	看護の展開
	事前・事後学習	事前・事後学習：学習の主題に関して自分なりに調べ、まとめる
13	学習の主題	看護実践のプロセス (4)
	授業内容	事例をもとに看護実践について考える
	事前・事後学習	事前・事後学習：学習の主題に関して自分なりに調べ、まとめる
14	学習の主題	保健医療福祉システムにおける看護の役割 (1)
	授業内容	1. 保健、医療、福祉とは 2. 保健医療福祉の提供システム
	事前・事後学習	事前・事後学習：学習の主題に関して自分なりに調べ、まとめる
15	学習の主題	保健医療福祉システムにおける看護の役割 (2)
	授業内容	1. チーム医療とは 2. 各職種の役割 3. 多職種連携と協働
	事前・事後学習	事前・事後学習：学習の主題に関して自分なりに調べ、まとめる

学習の主題・  
授業内容

授業科目	看護技術総論 Introduction to Nursing Arts		担当教員	本吉 明美、園田 典子、柏倉 大作、 横山 桂子、小島 悦子
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・前期		選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1単位	
授業目的	看護実践を体現する技術の概念と特性を理解するとともに、看護実践の基盤となる基本的技術を修得する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護技術の定義が意味するものを説明できる。</li> <li>2. 看護技術における安全・安楽・自立・自律の概念を説明できる。</li> <li>3. 感染予防策の概要と感染経路対策を説明できる。</li> <li>4. ボディメカニクスの具体的な活用法を説明できる。</li> <li>5. 対象者の安全・安楽を考えた生活環境を整える意義を説明できる。</li> <li>6. バイタルサインを観察する意義と観察方法を説明できる。</li> <li>7. 感染予防、環境調整、バイタルサインに関する基本的な看護技術を根拠に基づき実施し、評価できる。</li> </ol>			
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高橋照子「看護学原論」(南江堂)</li> <li>2. 深井喜代子他「基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ」(メヂカルフレンド社)</li> <li>3. 深井喜代子他「基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ」(メヂカルフレンド社)</li> <li>4. ヘンダーソン、湯楨ます他訳「看護の基本となるもの」(日本看護協会出版会)</li> <li>5. ナイチンゲール、湯楨ます他訳「看護覚え書」(現代社)</li> </ol>			
参考書	1. 堺章「目でみるからだのメカニズム」(医学書院)			
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準	
	試験	50%	試験では、到達目標の達成度を評価する (50%)。 小テストまたは課題レポートでは、各単元に必要な知識の理解度を評価する (20%)。 提出物では、演習の事前学習課題および演習後記録の提出状況と学習態度を含めて評価する (30%)。	
	レポート	20%		
	小テスト			
	提出物	30%		
その他				
履修上の 留意事項	<p>本授業は、一斉講義と技術演習の授業形態で行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習の主題ごとに、テキストや専門基礎科目の学習も参考にして予習を行い、講義に臨みましょう。</li> <li>2. 演習は 2 または 3 クラス編制で行うことがあるため、演習要項で自分の演習時間を必ず確認して臨みましょう。</li> <li>3. 各技術演習の事前学習として、指定の資料やテキスト、視聴覚教材で予習し、当該技術の目的・原理・原則・方法・留意点などを理解しておくと共に、事前学習課題についてまとめ演習時に持参してください。</li> <li>4. 各技術演習後は、演習後記録を所定の用紙に記載し、指定された提出期限までに提出してください。</li> </ol>			
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例を織り交ぜながら看護技術について理解できるように授業を行います。			
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容	
	1 (本吉)	学習の主題	看護技術とは何か	
		授業内容	看護実践における看護技術の意味を理解する	
		事前・事後学習	事後学習：配付資料、テキストを復習する	
	2 (本吉)	学習の主題	感染予防の基礎技術 (1)	
		授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感染とは</li> <li>2. 感染予防策</li> <li>3. 感染予防における看護師の役割</li> <li>4. 感染予防の技術</li> </ol>	
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを読んでおく	
	3 (全担当教員)	学習の主題	感染予防の基礎技術 (2) (演習)	
		授業内容	手指衛生と個人防護具の取扱いに関する看護技術を習得する	
事前・事後学習		<p>事前学習：テキスト、配付資料をもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う</p> <p>事後学習：行った演習を振り返り、演習後記録を整理する</p>		

回数 (担当)	項目	内容
4 (本吉)	学習の主題	環境調整の技術 (1)
	授業内容	1. 病床環境を整える意義を理解する 2. 病床環境のアセスメントの視点を理解する
	事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを読んでおく
5 (本吉)	学習の主題	環境調整の技術 (2)
	授業内容	1. 看護におけるボディメカニクスの意義と原則を理解する 2. 病床環境を安全・安楽に整える方法 (ベッドメイキング、環境整備) を理解する
	事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを読んでおく
6 (全担当教員)	学習の主題	環境調整の技術 (3) (演習)
	授業内容	ボディメカニクスを活用したベッドメイキングと病床環境を整える技術演習を行い、看護の基本となる技術を習得する
	事前・事後学習	事前学習：テキスト、配付資料をもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：行った演習を振り返り、演習後記録を整理する
7 (本吉)	学習の主題	環境調整の技術 (4)
	授業内容	病床環境を安全・安楽に整える方法 (リネン交換、環境整備) について理解する
	事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを読んでおく
8 (全担当教員)	学習の主題	環境調整の技術 (5) (演習)
	授業内容	ボディメカニクスを活用したリネン交換の看護技術を習得する
	事前・事後学習	事前学習：テキスト、配付資料をもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：行った演習を振り返り、演習後記録を整理する
9 (園田)	学習の主題	バイタルサインズの観察 (1)
	授業内容	1. バイタルサインズとは 2. バイタルサインズを観察する意義 3. バイタルサインズの変動要因
	事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを読んでおく
10 (全担当教員)	学習の主題	バイタルサインズの観察 (2) (演習)
	授業内容	バイタルサインズの観察の看護技術を習得する
	事前・事後学習	事前学習：テキスト、配付資料をもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：行った演習を振り返り、演習後記録を整理する
11 (園田)	学習の主題	バイタルサインズの観察 (3)
	授業内容	バイタルサインズの観察方法と留意点を理解する
	事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを予習して講義に臨むこと
12 (全担当教員)	学習の主題	バイタルサインズの観察 (4) (演習)
	授業内容	バイタルサインズの観察の看護技術を習得する
	事前・事後学習	事前学習：テキスト、配付資料をもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：行った演習を振り返り、演習後記録を整理する
13 (全担当教員)	学習の主題	バイタルサインズの観察 (5) (演習)
	授業内容	バイタルサインズの観察の看護技術を習得する
	事前・事後学習	事前学習：テキスト、配付資料をもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：行った演習を振り返り、演習後記録を整理する

学習の主題・  
授業内容

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	14 (全担当教員)	学習の主題	事例をもとに看護技術を実施する (1) (演習)
		授業内容	病床環境を整える看護技術とバイタルサインズの観察の看護技術を模擬事例に展開する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配付資料をもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：行った演習を振り返り、演習後記録を整理する
	15 (全担当教員)	学習の主題	事例をもとに看護技術を実施する (2) (演習)
		授業内容	病床環境を整える看護技術とバイタルサインズの観察の看護技術を模擬事例に展開する
		事前・事後学習	事前学習：テキスト、配付資料をもとに演習のイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：行った演習を振り返り、演習後記録を整理する

授業科目	援助関係論 Supportive Relationship for Nursing		担当教員	木津 由美子、石村 珠美、吉田 祐子
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・前期		選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	1単位	
授業目的	看護職として質の高いケアを提供するためには、対象者との援助関係・信頼関係が重要であることから、対象者を深く理解し、人間関係を構築するためのコミュニケーションを中心とした基礎的な知識を理解する。			
到達目標	1. コミュニケーションについて説明できる。 2. 援助的な対人関係がイメージできる。 3. コミュニケーション技術を習得する。			
テキスト	石川ひろの編「系統看護学講座 基礎分野 人間関係論」第3版(医学書院)2018			
参考書	篠崎 恵美子著「看護コミュニケーション：基礎から学ぶスキルとトレーニング」(医学書院)2015			
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準	
	試験	60%	筆記試験、演習時の参加状況、課題レポートにより評価する(詳細はガイダンスにて説明する)。	
	レポート			
	小テスト			
	提出物	40%		
その他				
履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に演習に参加すること。</li> <li>・提示されたテキストのページに沿って予習復習をすること。</li> <li>・ワークシートを整理(追記・修正など)すること。</li> </ul>			
実務経験を活かした教育内容	看護師として病棟勤務の経験を踏まえて、患者-看護師やチームとしての人間関係の重要性を事例を用いてわかりやすい授業を展開します。			
学習の主題・授業内容	回数(担当)	項目	内容	
	1 (木津)	学習の主題	ガイダンス(科目の目的・目標・評価方法) 人間関係における自己と他者	
		授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間関係とは</li> <li>・自己とは</li> <li>・他者とは</li> <li>・コミュニケーションとは</li> </ul>	
		事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前にシラバスを読み、学習内容を確認しておく。</li> <li>・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。</li> </ul>	
	2 (木津)	学習の主題	人間関係をつくる理論と技法①：コミュニケーション技法①	
		授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションとは</li> <li>・対人コミュニケーション</li> <li>・言語的コミュニケーション</li> <li>・非言語的コミュニケーション</li> <li>・傾聴と共感</li> <li>・開かれた質問と閉ざされた質問</li> </ul>	
		事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。</li> </ul>	
	3 (木津)	学習の主題	対人関係と役割	
		授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対人関係の成立</li> <li>・対人関係の維持と崩壊</li> <li>・対人葛藤と対処</li> <li>・社会的役割</li> </ul>	
	4・5 (木津) (石村) (吉田)	学習の主題	演習：人間関係をつくるコミュニケーション	
		授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間関係構築に必要なコミュニケーションについて体験学習をする</li> </ul>	
	6 (木津)	事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。</li> </ul>	
		学習の主題	集団と個人	
		授業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団の特性</li> <li>・集団での課題遂行・問題解決・意思決定</li> <li>・リーダーシップ</li> </ul>	
	事前・事後学習	事後学習：ワークシートを整理する。		

回数 (担当)	項目	内容
7 (木津)	学習の主題	自己理解・他者理解
	授業内容	・自分を理解するということ ・交流分析 ・カウンセリング・心理療法
	事前・事後学習	事前学習：該当ページをテキストで予習する 事後学習：ワークシートを整理する。
8 (木津)	学習の主題	人間関係をつくるコミュニケーション技法②
	授業内容	・アサーションの理論とスキル
	事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
9 (木津)	学習の主題	保健医療チームの人間関係
	授業内容	・医療におけるチームと看護師の役割 ・チームワークとチームエラー ・チームにおけるコミュニケーション
	事前・事後学習	事後学習：配布資料で復習する。ワークシートを整理する。
10 (木津)	学習の主題	患者を支える人間関係
	授業内容	・リフレクション ・プロセスレコード
	事前・事後学習	事後学習：配布資料で復習する。ワークシートを整理する。
11・12 (木津) (石村) (吉田)	学習の主題	演習：看護学生としてのコミュニケーション
	授業内容	・看護者として必要なコミュニケーション技法を体験学習する
	事前・事後学習	事後学習：配布資料で復習する。ワークシートを整理する。
13 (石村)	学習の主題	人間関係をつくるコミュニケーション技法③：コーチング
	授業内容	・コーチングの理論とスキル
	事前・事後学習	・該当ページをテキストで予習し、配布資料にて復習する。
14 (木津)	学習の主題	様々な看護場面における人間関係
	授業内容	・クリティカルな状況の患者を支える人間関係 ・慢性疾患をかかえて生きる患者を支える人間関係 ・死に向かう患者を支える人間関係
	事前・事後学習	事前学習：該当ページをテキストで予習する。 事後学習：ワークシートを整理する
15 (木津)	学習の主題	まとめ
	授業内容	・第1回～14回までの総復習
	事前・事後学習	事後学習：ワークシートを整理する。

学習の主題・  
授業内容

授業科目	看護技術論Ⅰ Fundamentals of Nursing SkillⅠ	担当教員	園田 典子、本吉 明美、柏倉 大作、 横山 桂子、小島 悦子
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	演習	単位数	2単位
授業目的	対象の安全・安楽・自立・自律を考えた日常生活の支援に関する基礎的な知識・技術・態度を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護職が日常生活を支援することの意義を説明できる。</li> <li>2. 人間にとって活動と運動の意義、活動と運動に関する支援について説明できる。</li> <li>3. 人間にとって睡眠と休息の意義、睡眠と休息に関する支援について説明できる。</li> <li>4. 人間にとって安楽の意義、安楽を促進する支援について説明できる。</li> <li>5. 人間にとって衣生活の意義、衣生活に関する支援について説明できる。</li> <li>6. 人間にとって清潔の意義、清潔に関する支援について説明できる</li> <li>7. 人間にとって排泄の意義、排泄に関する支援について説明できる。</li> <li>8. 人間にとって食事・栄養摂取の意義、食事・栄養摂取に関する支援について説明できる。</li> <li>9. 日常生活を支援するための基本的な看護技術を実施できる。</li> </ol>		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 深井喜代子他「基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ」(メヂカルフレンド社)</li> <li>2. 深井喜代子他「基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ」(メヂカルフレンド社)</li> <li>3. 新しい食生活を考える会編「食品解説つき新ビジュアル 食品成分表 新訂第二版」(大修館書店)</li> </ol>		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ナイチンゲール、湯楨ます他訳「看護覚え書」(現代社)</li> <li>2. ヘンダーソン、湯楨ます他訳「看護の基本となるもの」(日本看護協会出版会)</li> <li>3. 堺章「目でみるからだのメカニズム」(医学書院)</li> </ol>		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	50%	試験では、到達目標の達成度を評価する(50%)。小テストまたは課題レポートでは、各単元に必要な知識の理解度を評価する(20%)。提出物は、演習の事前学習課題および演習後記録の提出状況と学習態度を含めて評価する(30%)。
	レポート	20%	
	小テスト		
	提出物	30%	
その他			
履修上の 留意事項	<p>本授業は、一斉講義と技術演習の授業形態で行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習の主題ごとに、テキストや専門基礎科目の学習も参考にして予習を行い、講義に臨みましょう。</li> <li>2. 演習は2または3クラス編成で行うことがあるため、演習要項で自分の演習時間を必ず確認して臨みましょう。</li> <li>3. 各技術演習の事前学習として、指定の資料やテキスト、視聴覚教材で予習し、当該技術の目的・原理・原則・方法・留意点などを理解しておくと共に、事前学習課題についてまとめ演習時に持参してください。</li> <li>4. 各技術演習後は、演習後記録に取り組み、指定された提出期限までに提出してください。</li> </ol>		
実務経験を 活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨床現場の事例を織り交ぜながら看護技術について理解できるように授業を行います。		
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1 (園田)	学習の主題	ガイダンス・生活援助技術とは
		授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活援助技術とは</li> <li>2. 生活援助技術と看護過程</li> </ol>
		事前・事後学習	事後学習：配付資料を熟読し、復習をする
	2 (本吉)	学習の主題	活動・運動/睡眠・休息に関する看護(1)
		授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日常生活における活動・運動/睡眠・休息の意義</li> <li>2. 活動・運動/睡眠・休息に関するアセスメントの視点</li> <li>3. 活動・運動/睡眠・休息の支援方法</li> </ol>
		事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを予習する
	3 (本吉)	学習の主題	活動・運動/睡眠・休息に関する看護(2)
		授業内容	安全・安楽な体位保持・体位変換・移乗・移送の看護技術
事前・事後学習		事前学習：学習の主題に関するテキストを読んでおく	

回数 (担当)	項目	内容
4 (全担当教員)	学習の主題	活動・運動/睡眠・休息に関する看護(3)(演習)
	授業内容	1. 安全で安楽な体位変換の看護技術を実施し、評価する 2. 安全で安楽なポジショニングの看護技術を実施し、評価する
	事前・事後学習	事前学習：テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとにイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する
5 (本吉)	学習の主題	活動・運動/睡眠・休息に関する看護(4)
	授業内容	1. 安楽促進の意義 2. 安楽に関する支援方法とそのメカニズム
	事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを読んでおく
6 (全担当教員)	学習の主題	活動・運動/睡眠・休息に関する看護(5)(演習)
	授業内容	安全・安楽な車椅子の移乗・移送、ストレッチャーの移乗・移送の看護技術を実施し、評価する
	事前・事後学習	事前学習：テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとにイメージトレーニング、課題を行う。 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する
7 (全担当教員)	学習の主題	活動・運動/睡眠・休息に関する看護(6)(演習)
	授業内容	温電法、冷電法の看護技術を実施し、評価する
	事前・事後学習	事前学習：テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとにイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する
8 (園田)	学習の主題	清潔・衣生活に関する看護(1)
	授業内容	1. 清潔、衣生活の意義 2. 衣生活に関する支援方法
	事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを読んでおく
9 (全担当教員)	学習の主題	清潔・衣生活に関する看護(2)(演習)
	授業内容	寝衣交換の看護技術を実施し、評価する
	事前・事後学習	事前学習：テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとにイメージトレーニング、課題を行う。 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する
10 (園田)	学習の主題	清潔・衣生活に関する看護(3)
	授業内容	対象者に合わせた安全・安楽な足浴ケアの根拠と方法
	事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを読んでおく
11 (全担当教員)	学習の主題	清潔・衣生活に関する看護(4)(演習)
	授業内容	根拠に基づき足浴ケアの看護技術を実施し、評価する
	事前・事後学習	事前学習：テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとにイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する
12 (園田)	学習の主題	清潔・衣生活に関する看護(5)
	授業内容	対象者に合わせた安全・安楽な全身清拭のケアの根拠と方法
	事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを予習する
13 (全担当教員)	学習の主題	清潔・衣生活に関する看護(6)(演習)
	授業内容	全身清拭の看護技術を根拠に基づき実施し、評価する
	事前・事後学習	事前学習：テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとにイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する
14 (園田)	学習の主題	清潔・衣生活に関する看護(7)
	授業内容	対象者に合わせた安全・安楽な洗髪ケアの根拠と方法
	事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを読んでおく

学習の主題・  
授業内容

回数 (担当)	項目	内容
15 (全担当教員)	学習の主題	清潔・衣生活に関する看護 (8) (演習)
	授業内容	洗髪 of 看護技術を根拠に基づき実施し、評価する
	事前・事後学習	事前学習：テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとにイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する
16 (園田)	学習の主題	清潔・衣生活に関する看護 (9)
	授業内容	1. 清潔に関するアセスメントの視点 2. 整容・口腔ケアの意義、根拠と方法
	事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを読んでおく
17 (全担当教員)	学習の主題	清潔・衣生活に関する看護 (10) (演習)
	授業内容	根拠に基づき整容・口腔ケアの看護技術を実施し、評価する
	事前・事後学習	事前学習：テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとにイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する
18 (横山)	学習の主題	排泄に関する看護 (1)
	授業内容	1. 排泄の意義 2. 排泄に関するアセスメントの視点 3. 排泄に関する支援方法
	事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを読んでおく
19 (全担当教員)	学習の主題	排泄に関する看護 (2) (演習)
	授業内容	尿器・便器を使用した看護技術を根拠に基づき実施し、評価する
	事前・事後学習	事前学習：テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとにイメージトレーニング課題を行う 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する
20 (横山)	学習の主題	排泄に関する看護 (3)
	授業内容	対象者に合わせた安全・安楽な陰部の清潔を保持する支援方法
	事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを読んでおく
21 (全担当教員)	学習の主題	排泄に関する看護 (4) (演習)
	授業内容	陰部洗浄の看護技術を根拠に基づき実施し、評価する
	事前・事後学習	事前学習：テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとにイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する
22 (柏倉)	学習の主題	食事・栄養に関する看護 (1)
	授業内容	1. 食事・栄養摂取の意義 2. 食事・栄養摂取のメカニズム 3. 食事・栄養摂取に関するアセスメントの視点
	事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを読んでおく
23 (全担当教員)	学習の主題	食事・栄養に関する看護 (2) (演習)
	授業内容	1. 事前課題をもとに各自の食事内容についてグループ内で発表し検討する 2. 食事バランスガイド及び「そのまんま料理カード」を用いてグループ学習し、よりバランスの良い 1 日の食事について、メニューを立案する
	事前・事後学習	事前学習：事前に提示された課題に取り組み、グループワークに臨む
24 (柏倉)	学習の主題	食事・栄養に関する看護 (3)
	授業内容	1. グループワークで話し合った内容を発表・ディスカッションを通し、バランスの良い食事について学びを共有する 2. 健康障害を持つ対象の食事・栄養摂取
	事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを読んでおく
25 (柏倉)	学習の主題	食事・栄養に関する看護 (4)
	授業内容	1. 健康障害を持つ対象の食事の支援方法 2. 嚥下障害のある対象の経口摂取の支援方法
	事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを読んでおく

学習の主題・  
授業内容

回数 (担当)	項目	内容	
		学習の主題	授業内容
26 (全担当教員)	学習の主題	食事・栄養に関する看護 (5) (演習)	
	授業内容	1. 自力で食事摂取が困難な対象の食事介助 2. 嚥下障害のある対象の水分摂取の介助	
	事前・事後学習	事前学習：テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとにイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する	
27 (柏倉)	学習の主題	食事・栄養に関する看護 (6)	
	授業内容	1. 経口摂取が困難な対象の支援方法 2. 非経口栄養法の適応と方法	
	事前・事後学習	事前学習：学習の主題に関するテキストを読んでおく	
28 (全担当教員)	学習の主題	食事・栄養に関する看護 (7) (演習)	
	授業内容	経管栄養法の看護技術を根拠に基づき実施し、評価する	
	事前・事後学習	事前学習：テキスト、配布資料、視聴覚教材をもとにイメージトレーニング、課題を行う 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する	
29 (全担当教員)	学習の主題	事例に基づく技術1 (演習)	
	授業内容	模擬事例の状態をアセスメントし、必要な日常生活の援助を展開する	
	事前・事後学習	事前学習：これまでに学習した内容について復習する 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する	
30 (全担当教員)	学習の主題	事例に基づく技術2 (演習)	
	授業内容	模擬事例の状態をアセスメントし、必要な日常生活の援助を展開する	
	事前・事後学習	事前学習：これまでに学習した内容について復習する 事後学習：行った演習を振り返り、演習記録を整理する	

学習の主題・  
授業内容

授業科目	看護基礎実習Ⅰ Clinical Practicum of Fundamental Nursing Ⅰ	担当教員	小島 悦子、本吉 明美、園田 典子 柏倉 大作、横山 桂子
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・前期	選択・必修	必修
授業形態	実習	単位数	1単位
ねらい	本実習の目的は、入学早期の段階において、医療現場におけるチーム医療を実践する各職種の役割を理解し、チーム医療における看護職の役割を考えることである。また、入院患者の療養生活や療養環境の観察及び看護実践の見学・実施を通して、療養環境を整えることやバイタルサインズを観察する意義、看護の専門性について考えることである。さらに、看護学生として倫理的態度を身につけ、看護を学ぶ意欲を高めることである。		
実習目標	1. 医療機関の特徴とチーム医療に関わる各職種の役割を理解する。 2. 医療機関に入院している患者及び看護実践の観察を通して、看護の専門性を理解する。 3. 看護学生として倫理的態度を身につける。		
実習内容	実習内容の詳細は、実習要項を用いて実習オリエンテーション時に説明する。		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	100%	実習目標の到達度を評価基準に基づき評価し、60点以上を合格とする。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の留意事項	実習オリエンテーションは必ず出席してください。 実習オリエンテーション時に配布する「臨地実習共通要項」および「看護基礎実習Ⅰ実習要項」は実習開始までによく読み、理解した上で実習に臨んでください。		
実務経験を活かした教育内容	実務経験者の立場から、臨地実習での学びをサポートします。		
実習方法	1. グループごとに配置された病院および病棟で実習を行う。 2. 実習期間：以下のいずれかの期間となる ① 2021年7月19日(月)～7月21日(水)、7月30日(金) ② 2021年7月26日(月)～7月30日(金) 3. 実習1日目は、午前に病院・病棟オリエンテーションと施設見学を行う。 4. 実習2日目からは病棟の実習指導者と行動を共にしながら、看護実践の見学・実施を通して看護について理解を深める。 5. 学生が実施できる看護技術は、環境整備、ベッドメイキング、シーツ交換、バイタルサインズの観察である。 6. 毎日、実習指導者と行動調整をしてから実習を開始し、終了時は振り返りを行い、学びを整理する。 7. 最終日に学内でグループワークと全体報告会を行い、学びを共有する。		
実習施設	北海道内科リウマチ科病院、KKR 札幌医療センター、札幌医科大学附属病院、札幌山の上病院、手稲溪仁会病院、斗南病院		

授業科目	成人看護学概論 Introduction to Adult Nursing	担当教員	佐藤 郁恵
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・後期	選択・必修	必修
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	ライフサイクルにおける成人期の位置づけ、成人期にある人の特徴を学ぶ。また、成人を取り巻く健康課題と成人看護の役割、成人期にある人を看護するための有用な概念や理論について学ぶ。なお、本科目は成人看護活動論と成人看護実習の基礎となる科目である。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ライフサイクルにおける成人期の位置づけ、成人期の発達段階と成人各期の特徴を説明できる。</li> <li>2. 成人期に特徴的な健康問題について説明できる。</li> <li>3. 成人期にある人の健康課題を理解・解決するために有用な理論について説明できる。</li> <li>4. 成人期の看護実践に必要な多職種連携とチーム医療について説明できる。</li> </ol>		
テキスト	林直子他編集「看護学テキスト NiCE 成人看護学概論 改訂第3版」(南江堂)		
参考書	国民衛生の動向 (厚生労働統計協会)		
評価方法・基準	評価方法	評価割合 (%)	評価基準
	試験	80%	目標達成状況を課題レポート (2回提出で20点) と定期試験 (80点) で評価します。 課題レポートのテーマは、講義時 (3回目・7回目) で知らせます。 レポートの評価基準は、ルーブリックで提示します。
	レポート	20%	
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の留意事項	本科目は専門基礎科目や他の専門科目とも関連づけて学んで下さい。受講に際しては事前事後の学習を行い主体的に学んで下さい。		
実務経験を活かした教育内容	臨床での経験や事例を織り交ぜながら、概念や理論が理解しやすいように授業を行います。		
学習の主題・授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1	学習の主題	ガイダンス、ライフサイクルにおける成人の位置づけ
		授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人とは</li> <li>2. 成人各期の発達段階・発達課題</li> </ol>
		事前・事後学習	事後学習：テーマにそって課題をまとめる
	2	学習の主題	成人期にある人の理解
		授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期にある人の特徴的な健康課題</li> <li>2. 成人保健の動向</li> </ol>
		事前・事後学習	事後学習：テーマにそって課題をまとめる
	3	学習の主題	成人期にある人の生活と健康
		授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活習慣に関連した健康障害</li> <li>2. 職業に関連した健康障害</li> <li>3. ストレスと健康障害</li> </ol>
		事前・事後学習	事後学習：課題レポートを講義時に提示します。
	4	学習の主題	成人看護に有用な概念・理論 (1)
		授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. セルフケアの概念・理論</li> <li>2. セルフマネジメントを促す支援</li> </ol>
		事前・事後学習	事後学習：テーマにそって課題をまとめる
	5	学習の主題	成人看護に有用な概念・理論 (2)
		授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病みの軌跡</li> <li>2. 慢性疾患を抱える患者の看護</li> </ol>
		事前・事後学習	事後学習：テーマにそって課題をまとめる
	6	学習の主題	成人看護に有用な概念・理論 (3)
		授業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アンドラゴジー</li> <li>2. 自己効力理論 (セルフ・エフィカシー)</li> <li>3. コンプライアンス・アドヒアランス</li> </ol>
事前・事後学習		事後学習：テーマにそって課題をまとめる	

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	7	学習の主題	成人看護に有用な概念・理論 (4)
		授業内容	1. 危機理論 2. ストレス・コーピング理論 3. 急性疾患を抱える患者の看護
		事前・事後学習	事後学習：課題レポートを講義時に提示します。
	8	学習の主題	保健医療福祉チームとの連携・協働と看護の役割
		授業内容	1. 継続看護とは、継続看護の場と役割 2. チーム医療における看護師の役割
		事前・事後学習	事後学習：テーマにそって課題をまとめる

授業科目	情報管理論 Information Management	担当教員	末光 厚夫
対象学科・ 年次・学期	看護学科・1年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	本科目では、ユビキタスネットワーク社会において、情報技術（IT）を活用して、活動していくための基礎を習得することを目的とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報技術の発展と社会の変化について理解する。</li> <li>2. 情報倫理について理解する。</li> <li>3. PCのしくみと機能、インターネット、情報セキュリティの基礎を理解する。</li> <li>4. 生活や職場環境に関わる重要な情報技術の基礎を理解する。</li> </ol>		
テキスト	授業時に資料を配付する。		
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大内東編「文系学生がまなぶ情報学」（コロナ社）</li> <li>2. 中山和弘他「看護情報学」（医学書院）</li> <li>3. 富士通エフ・オー・エム「情報モラル &amp; セキュリティ〈改訂版〉」（FOM出版）</li> </ol>		
評価方法・ 基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準
	試験		情報化社会、情報倫理、PC、インターネット、情報セキュリティ、Web・ビッグデータ・クラウドに関する情報技術についてのレポートを中間回と最終回に課し、その理解度を評価する。
	レポート	100%	
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の 留意事項	事前学習は特に必要ないが、授業で習った内容については、次週までに十分な理解となるように復習しておくこと。		
実務経験を 活かした教育内容			
学習の主題・ 授業内容	回数 (担当)	項目	内容
	1	学習の主題	情報技術と社会
		授業内容	高度情報社会の成り立ちやIT革命など情報技術の進展に伴う社会の変化について理解を深める。
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	2	学習の主題	情報倫理
		授業内容	情報技術を正しく活用するために、情報を取り扱う上で遵守すべきルールやマナーについて学ぶ。
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	3	学習の主題	PCのしくみと機能
		授業内容	PCを構成するハードウェアとソフトウェアについて、そのしくみと機能の基礎を理解する。
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	4	学習の主題	インターネットのしくみ
		授業内容	インターネットを実現するコンピュータネットワークとデータ通信のしくみの基礎を理解する。
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	5	学習の主題	情報セキュリティ
		授業内容	PCやスマートフォンなどの情報機器を利用する際に起こりうる脅威とその対策について理解する。
		事前・事後学習	講義内容を復習する。指定する期日までに課題を完成して提出する。
	6	学習の主題	インターネットコミュニティ
		授業内容	Webページに関する情報技術の基礎を理解し、インターネットコミュニティの代表的なサービスについて学ぶ。
事前・事後学習		講義内容を復習する。	

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	7	学習の主題	ビックデータとクラウド
		授業内容	ビックデータとクラウドに関する情報技術の基礎を理解し、それらの技術が用いられているサービスを学ぶ。
		事前・事後学習	講義内容を復習する。
	8	学習の主題	医療とIT
		授業内容	医療において活用されている情報技術について理解を深める。
		事前・事後学習	講義内容を復習する。指定する期日までに課題を完成して提出する。

授業科目	スポーツ理論 Sports Theory	担当教員	平間 康允
対象学科・年次・学期	看護学科・1年次・後期	選択・必修	選択
授業形態	講義	単位数	1単位
授業目的	看護師・養護教諭・保健師・栄養士・管理栄養士は、患者・生徒・クライアント等の健康を預かる大切な役割を担っている。そして、その健康の保持増進に影響を及ぼすとされるのが運動（スポーツ）である。本科目では、健康を含めた対象者のQOLに大きく関わる運動やスポーツについて自ら学び体験し、知識を構築するだけでなく、自身の運動習慣確立の第一歩とする事を目的とする。		
到達目標	1. 「健康とスポーツ（体力）との関連」や「栄養と睡眠」について理解する。 2. 「心身のつながりとスポーツとの関連」や「動機づけ」のメカニズムについて理解する。 3. 「トレーニング理論」と「運動プログラムの組み方」や「コンディションのセルフチェック法」について理解する。 4. 「スポーツを取り巻く社会変化」について理解する。		
テキスト	プリントを配布		
参考書	1. 杉原隆著「運動指導の心理学」（大修館書店） 2. （特非）日本トレーニング指導者協会編著「JATI トレーニング指導者テキスト【理論編】」（ベースボールマガジン社） 3. （特非）日本トレーニング指導者協会編著「JATI トレーニング指導者テキスト【実践編】」（ベースボールマガジン社）		
評価方法・基準	評価方法	評価割合（％）	評価基準
	試験	100%	受験条件（講義出席回数 2/3 以上）を満たした学生に対し、目標の到達状況を筆記試験にて 100% 評価する。
	レポート		
	小テスト		
	提出物		
その他			
履修上の留意事項	他者の学習の妨げとなるような私語や携帯電話の使用、飲食等を禁じる（飲み物は蓋付のもので、飲む時以外は机の上に置かなければ可）。禁止行為に対しては注意・指摘するが、改善が見られない場合は途中退室を命じることがある。大学生として節度ある受講態度を心掛けつつ、受講者間において講義内容に関する自由闊達な議論が展開されることを望む。尚、シラバスに記載されている内容や順番は状況により変更する場合がある。		
実務経験を活かした教育内容			
学習の主題・授業内容	回数（担当）	項目	内容
	1	学習の主題	・ガイダンス ・「こころとからだ」のつながり
		授業内容	講義の目的と内容構成、受講の諸注意、評価方法、講義の進め方について理解する。 スポーツ理論を学ぶ上で基本となる「心身の関連」について理解する。
		事前・事後学習	シラバスを読む。
	2	学習の主題	・スポーツと動機づけについて
		授業内容	いわゆる“モチベーション”の正体を知り、その維持向上のメカニズムを学習する。スポーツ活動における成功（失敗）体験が人に及ぼす影響や自己コントロール法について理解する。
		事前・事後学習	「やる気」と「モチベーション」の違いを理解し、自分の精神を自己コントロールする訓練を行う。
	3	学習の主題	・フィードバックについて
		授業内容	運動学習における「フィードバック構造」について学習し、運動上達のメカニズムを理解する。フィードバックの効用を実験を通して体感する。
事前・事後学習		フィードバックを、自己の向上だけでなく、他者とのコミュニケーションにも活用する。	

	回数 (担当)	項目	内容
学習の主題・ 授業内容	4	学習の主題	・コーチングについて
		授業内容	コーチングの基礎を学習し、医療従事者、運動指導者に限らず、誰もが一度は遭遇する「他者を“コーチング”する場面」で力を発揮できるように準備する。
		事前・事後学習	学習したコーチングスキルを日常生活で使えるようになる。
	5	学習の主題	・コンディショニングの基本について
		授業内容	より良いスポーツ活動のために必要なコンディショニングは、心身のセルフチェックを行うことから始まる。
		事前・事後学習	自身の状態を確認し、以降のトレーニングにつなげる。
	6	学習の主題	・トレーニング理論と運動処方について
		授業内容	トレーニングの原則（運動 - 栄養 - 休養（超回復））について学習し、トレーニング計画作成の基本を理解する。
		事前・事後学習	簡単なトレーニングメニューの作成や、一定期間のトレーニング計画の立案をする。
	7	学習の主題	・各年代の体力特性および適正な運動処方について
		授業内容	年代別の体力特性について触れ、ジュニア期を中心に、人の発育発達に応じた適切な運動選択の方法について学習する。
		事前・事後学習	”いつ“、“何”を基準に、“どのような”運動を行えば良いのかを考え、理解する。
8	学習の主題	・スポーツと社会（オリンピック、ドーピング、人種、DNA） ・総括	
	授業内容	スポーツに纏わる様々な社会問題を通して、今後のスポーツ界はどうなっていくのか、56年ぶりの自国開催となった「東京五輪2020」を振り返りながら考察する。	
	事前・事後学習	オリンピックの歴史やスポーツ界の間について知り、未来のスポーツ界について思いをはせる。	